



Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery,
Nara Medical University

2024年 Facebookページ投稿記事

<https://www.facebook.com/otolaryngologyhnsnaramed/>



2024年1月1日



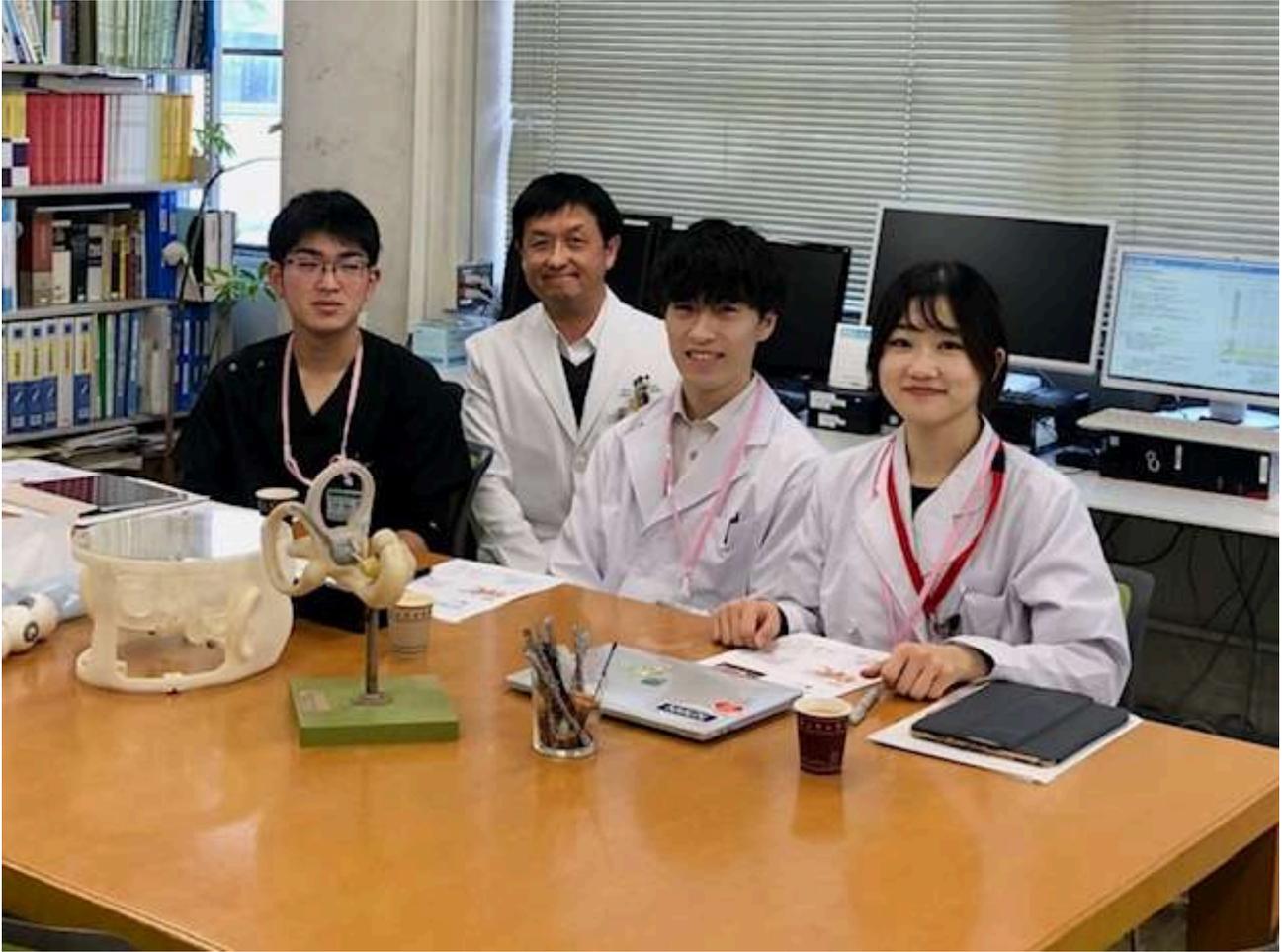
新年あけましておめでとうございます。

2024年の干支は「辰」にあたります。「辰」は十二支の中で唯一架空の生き物、龍（竜）を意味します。水や海の神として祀られてきた龍は、竜巻や雷などの自然現象を起こす大自然の躍動を象徴するものであり、「龍が現れるとめでたいことが起こる」と伝えられてきました。「辰年」は「成功という芽が成長して姿を整えていく」といった縁起の良さを表していると言えます。我が教室の後半戦、より成長した形で社会貢献できるよう、尽力して参りたく存じます。

最後になりましたが、皆様方のご多幸と益々のご発展を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。



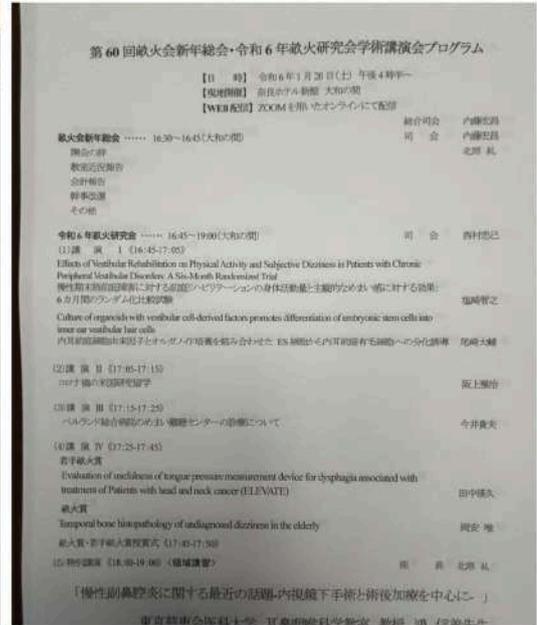
2024年1月19日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜午後は2024年、令和6年に入って初めての5年生1週ポリクリ総括+めまいクルズスとなりました。このクールからポリクリ班は4名で構成されるようになりましたので、以前よりさらに各人とのコミュニケーションが取りやすくなりました。総括は中咽頭Kを2例と下咽頭Kを1例と、腫瘍に偏る週になりました。めまいクルズスは質問に回答してもらいながら、step by stepで進めることができました。

明日はわが敵火同窓会の新年会ですが、残念ながら天気は曇りから雨のようです。年明けから巷ではいろいろ難しい出来事が起こりましたが、皆様方におかれましては良い週末をお過ごしください。

2024年1月20日



本日、第60回敵火会新年総会・令和6年敵火研究会学術講演会が奈良ホテルにて開催されました。

若手敵火賞、敵火賞にはそれぞれ田中瑛久先生と岡安唯先生が選ばれました。

特別講演には、東京慈恵会医大耳鼻咽喉科学教室教授の鴻 信義先生に『慢性副鼻腔炎に関する最近の話題-内視鏡下手術と術後加療を中心に-』のご講演をいただきました。鴻先生は長い間、鼻内視鏡手術のカリスマとして多くの鼻副鼻腔手術の専門医を育てられてこられており、本日のご講演でも若手耳鼻咽喉科医に多大な刺激を与えていただきました。



2024年1月26日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜午後は5回生1週ポリクリ総括+めまいクルズス。総括は真珠腫性中耳炎の軽症と重症、歯性上顎道洞炎、睡眠時無呼吸および習慣性扁桃炎それぞれに扁摘。珍しく腫瘍系の手術はなし。症例は4歳から75歳までと幅広く、耳鼻咽喉科の特徴を経験してもらうことができました。続けて、めまいクルズスは問題提起型の質問回答で進めてみました。

明日1月第4土曜は毎年、日耳鼻全国会議。東京日帰りになります。寒いようですが天気は良さそうです。皆様も良い週末をお迎えください。



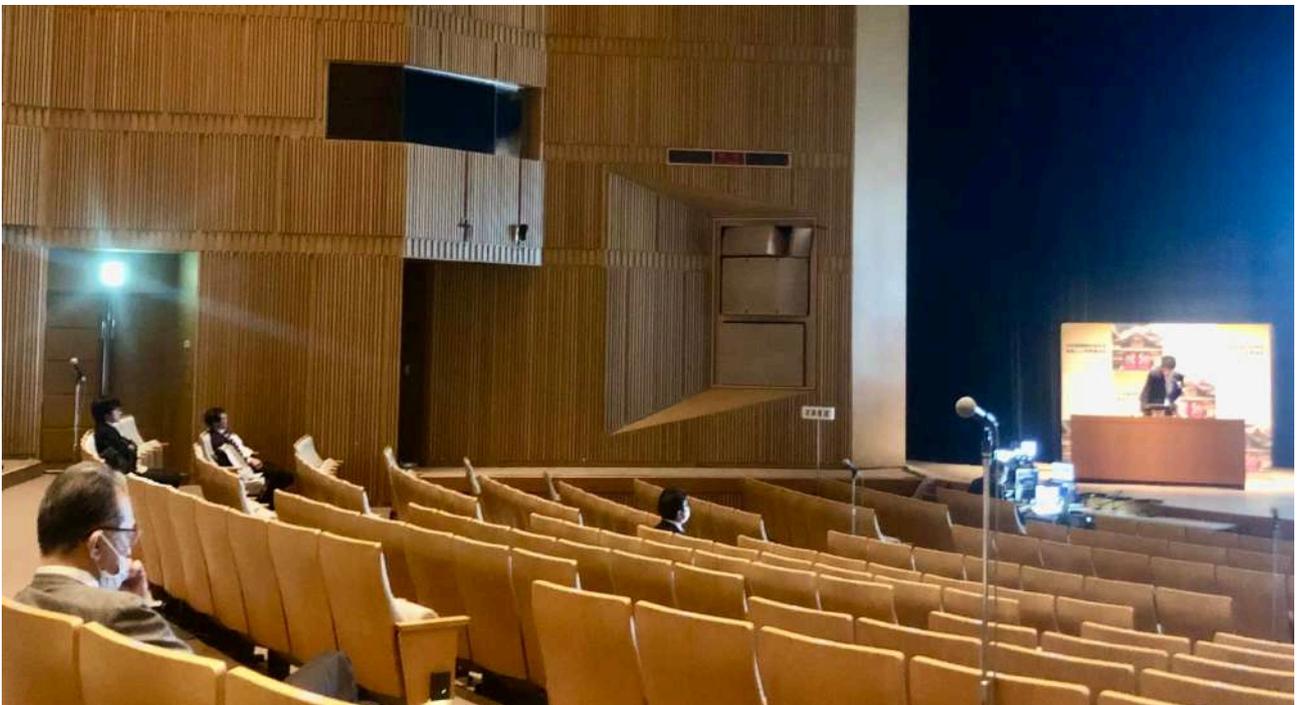
2024年2月1日



今週は多くの耳鼻科医が頭頸部外科学会で愛媛に出張。代わりに今井貴夫臨床教授にポリクリ総括兼めまいクルズスをお任せしました。ありがとうございました。



2024年2月1日



令和6年2月1日～2日、愛媛県民文化会館にて、第33回日本頭頸部外科学会総会・学術講演会が開催されています。

奈良県立医科大学関連では、奈良医大、近大奈良、ベルランド総合病院が参加し、近大奈良の衣川博貴先生は家根旦有教授に見守られ、立派に初口演をこなしました



2024年2月9日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜午後は5回生1週ポリクリ総括+めまいクルズス。総括は穿孔性中耳炎、真珠腫性中耳炎、鼻腔腫瘍、扁桃肥大症に関して症例をまとめてもらい、耳鼻咽喉科・良性疾患に対する手術治療を経験してもらうことができました。めまいクルズスは問題提起型の質問回答と治療手技としてYouTube動画を参考にしながら模型を使って浮遊耳石置換法を経験してもらいました。

本日2月9日は漫画家・手塚治虫先生の命日にちなんで「漫画の日」に制定されています。手塚先生は大阪府立北野高校から大阪大学医学部に進み、学位は奈良医大で取得されました。代表作の『ブラック・ジャック』は1973年11月から1983年10月まで長きにわたり連載され、医療漫画というジャンルの先駆けとなりました。その中で扱われた数多くの疾患の内、耳鼻咽喉科疾患は「耳硬化症」と「声帯ポリープ」。

良い週末3連休をお過ごしください。



2024年2月15日



今週もことのほか出張が多く、再び代わりに今井貴夫臨床教授にポリクリ総括兼めまいクルズスをお任せしました。ありがとうございました。

2024年2月22日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。明日は天皇誕生日なので本日本曜午後に5回生1週ポリクリ総括+めまいクルズスを開催しました。総括は真珠腫性中耳炎、耳下腺腫瘍、甲状腺腫瘍、頸部リンパ節腫脹の診断と治療に関して、しっかりまとめていただきました。めまいクルズスは生命予後に関わる症例のトリアージに続き、めまい疾患統計トップに君臨するBPPVの浮遊耳石置換法を学んでいただきました。

本日は市立吹田市民病院から当めまいセンター診療の一連の流れを見学に来られていた山戸章行先生に、折角ですのでポリクリにも参加していただきました。市立吹田市民病院は国立循環器病センターと組むことで斬新かつ強力なめまい診療システムを構築しています。さらに耳鼻咽喉科としても新しいめまい診療システムを導入する計画とのこと。頑張ってくださいと思います。

三寒四温、明日はまた寒くなるようです。風邪など引かれませぬよう、楽しい週末3連休をお過ごしください。



2024年2月23日

The 47th Annual Meeting of the Society of Swallowing and Dysphagia of Japan
第47回日本嚥下医学会 総会ならびに学術講演会

「サイエンス」を磨き
「食べる」を支える

Home
会長挨拶
開催概要
日程表・プログラム
指定演題登録
一般演題登録
採択演題一覧
事前参加登録
司会・座長・演者へのご案内

会期 2024年2月9日金・10日土
会場 りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館
〒951-8132 新潟県新潟市中央区一番堀通町3-2
会長 井上 誠 新潟大学大学院医歯学総合研究科
摂食嚥下リハビリテーション学分野 教授





2/9、2/10にりゅうとぴあ新潟市民芸術文化会館で開催されました第47回日本嚙下医学会に参加しました。当教室からは秋岡宏志医師、田中英久医師、石田千恵医師から演題発表させて頂きました。奈良県内での嚙下診療はまだまだ発展途上ですが、若い医師達が興味を持って取り組んでくれていることを大変嬉しく思います。奈良県の嚙下診療について県内他施設間で討議できる会を立ち上げて、この分野に対する知識・意識・指導力を高めていきたいと思ひます。また、石田医師の演題に関してご指導を頂きました近畿大学 北野睦三先生に感謝申し上げます。



2024年2月26日

The screenshot shows the Inspire website interface. At the top, there is a navigation menu with links for "睡眠時無呼吸を学ぶ" (Learn about sleep apnea), "動作の仕組み" (How it works), "よくある質問" (Frequently asked questions), and "病院を探す" (Find a hospital). The main content area features a video player with a red play button and a title "睡眠時無呼吸症の新しい治療法 - 舌下神..." (New treatment for sleep apnea - sublingual...). To the right of the video player is a large heading "動作の仕組み" (How it works) followed by descriptive text in Japanese.

舌下神経電気刺激療法 (Inspire) までの5ステップ

CPAPで苦労している場合は、
舌下神経電気刺激療法 (Inspire)
が有効かもしれません。

何万人もの睡眠時無呼吸症候群の患者さんが、どのようにして、
安らかに眠ることができない苦境を乗り越えて安眠できるようになったか
をご覧ください。



当科は睡眠時無呼吸治療に対する舌下神経刺激療法に大いに注力しています。

既に海外では一般的になっている刺激装置植え込み術。日本では2021年に保険適用になって間もなく、これからの普及が期待されます。当科の上村裕和病院教授が、手術適応と判断するまでの他科との綿密な連携、実際の手術手技とtips&tricksをお届けに参ります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



業務内容		
医療担当者 情報	所属機関	奈良県立医科大学
	所属部門	耳鼻咽喉・頭頸部外科学
	職位	病院教授
	氏名	上村 裕和
プログラム名称	「第10回植込み型舌下神経電気刺激装置植込み実施医研修会」	
日時	2024年2月24日(土) 9:00~13:00 予定	
会場	芝蘭会館 別館 2F 研修室 (京都市左京区吉田牛ノ宮町 11-1)	
役割	講義、ディスカッション	
議題等	舌下神経電気刺激療法 植込み術 実臨床テクニック等	
参加者	舌下神経電気刺激療法植込み実施医要件を満たす耳鼻咽喉科・頭頸部外科専門医	

業務内容		
医療担当者 情報	所属機関	奈良県立医科大学
	所属部門	耳鼻咽喉・頭頸部外科学
	職位	病院教授
	氏名	上村 裕和
プログラム名称	舌下神経刺激療法-沖縄県での導入に向けて-	
日時	2024年2月29日(木) 14:00~15:30	
会場	琉球大学医学部内	
役割	演者	
議題等	舌下神経刺激装置植込術の Tips と Tricks	
参加者	琉球大学医師(呼吸器内科、耳鼻咽喉科頭頸部外科、精神科、循環器内科、麻酔科等)、臨床検査技師、名嘉村クリニック医師、臨床検査技師	

業務内容		
医療担当者 情報	所属機関	奈良県立医科大学
	所属部門	耳鼻咽喉・頭頸部外科学
	職位	病院教授
	氏名	上村 裕和
プログラム名称	第36回日本喉頭科学会総会・学術講演会 学術セミナー5 (モーニング)	
日時	2024年3月8日(金) 8:00~8:50	
会場	ウェスティン都ホテル京都 第2会場 (西館4階 瑞穂の間・東)	
役割	演者	
議題等	安定した HNS を施行するための手術解剖と手術の Tips & Tricks 演者：上村 裕和先生 (奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 病院教授)	
参加者	日本喉頭科学会に所属の医師	



2024年2月27日



大阪府堺市中央区にあるベルランド総合病院めまい難聴センターのセンター長であり、奈良医大めまい難聴センターの木曜を担当してくれている今井貴夫臨床教授が、このたびの石川県能登地方を震源とする能登半島地震後にめまい症状が出現した方々を対象として、『めまいでお困りの方に対するオンライン健康相談』を無料相談として行っています。めまいやふらつきがあるけれど、病院に行ったほうが良いのか、気を付けることは何かなど、めまいで不安がある方のご相談に応じますので、お困りの方はぜひご相談ください。

2024年2月29日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。明日は熊本で学生講義、明後日は長野で市民講座なので、本日本曜午後に5回生1週ポリクリ総括+めまいクルズスをさせていただきました。総括は2名に人工内耳、あとは鼻腔血管腫、甲状腺腫瘍をまとめていただきました。

本日は4年に1度のうるう日。この10年でうるう日のポリクリは初めてです。すっかり忘れていましたが、単純に4の倍数の年がうるう年ではないのですね。100の倍数となる場合は平年、しかし400の倍数となる場合はうるう年なのでした。過去においては2000年は平年ではなくうるう年だったわけですが、しかし2100年は平年になるのですね。おそらく経験できないでしょうが。そんな特別な日に大谷翔平選手が結婚を発表。明日からはもう3月に入ります。それでは良い週末をお過ごしください。

2024年3月4日



今年も令和6年度の臨床統合講義が始まりました。初日は北原による『耳鼻咽喉科総論』『耳鼻咽喉科とめまい平衡医学』に引き続き、大阪ボイスセンターからお越しいただいた望月隆一非常勤講師による『耳鼻咽喉科と音声言語医学』の3限連続対面講義となっています。

さすが望月講師、開始早々からTHE TENORでテンション上げてます。当講義はPDF、YouTubeで復習できます。めまいや音声というニッチな領域も是非エンジョイしてください。



2024年3月6日



本学では研究マインドを身につけることを目的に2回生が1月4日から3月6日までの2カ月間でリサーチクラクシップを実施しています。

今年度も2名の学生が耳鼻咽喉・頭頸部外科に配属され実験を行いました。その成果を本日WEB発表会にて見事に発表しました。

内容は「頭部急速運動を用いた耳石器機能検査の妥当性の検討」というタイトルでめまいの検査であるvHIT,VEMP,SVVを用いて新たな検査の開発を目指したものです。

学生たちは合計50人以上の若年、高齢健常者を対象にSVVやVEMPなどの検査を実施し、眼球運動を共分散構造分析にて解析するという難解な課題をしっかりとやりとげました。

臨床ではまだまだわかっていないことが多く、常に臨床疑問を持ち仮説検証を実施していくことが新たな治療法の開発につながり患者さんたちの生活を変えていきます。

奈良県立医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科では常に研究マインドをもち、最良の医療を提供できる人材を育成していくことを目指しています。

今回の学生たちが将来、臨床をしながら研究にも興味を持って実践してくれることを祈っています。



2024年3月6日

Inspire
Sleep Apnea Innovation

**閉塞性睡眠時無呼吸症候群の治療選択枝
舌下神経刺激療法セミナー
-沖縄県への導入に向けて-**

日時 2024年2月29日(木) 14:00~15:30

会場 琉球大学 基礎講義実習棟 1階 101教室

座長 高江洲 義和 先生
琉球大学大学院医学研究科精神病態医学講座 准教授

プログラム

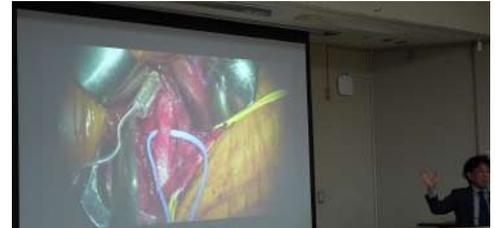
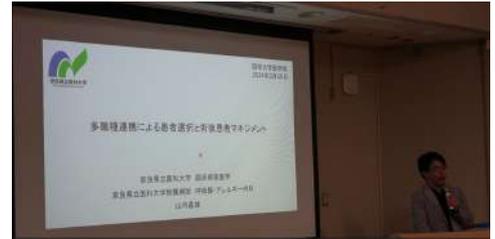
舌下神経刺激装置植込術のTips&Tricks
上村 裕和 先生
奈良県立医科大学 耳鼻咽喉頭頸部外科学 病院教授

初期患者選択と術後患者マネージメント
山内 基雄 先生
奈良県立医科大学 呼吸器内科 / 医学部看護学科臨床病態医学講座 教授

ケースディスカッション
名嘉村 敬 先生
医療法人HSR 名嘉村クリニック 院長

参加費 無料

問い合わせ 担当: 中里 元気
genkinakazato@inspiresleep.com
070-8903-3510



舌下神経刺激療法月間

以下、上村裕和病院教授が報告します。

第1週目は、京都で第10回植込み型舌下神経電気刺激装置植込み実施医研修会（2/24）が行われ、座学・CSTの講師として参加させて頂きました。講義に対する質問も多く頂き大変熱い講習会でした。CSTを行わせて頂いた京都大学の施設（CAL）は大変素晴らしく、圧倒されました。京都大学 大森教授、本多先生、藤村先生有難うございました。また、この研修会を修了し、奈良県立医科大学 木村隆浩医師が私に次いで2人目の術者資格を取得しました。

第2週目は、琉球大学で本治療導入に向けての講演を行わせて頂きました。当施設呼吸器内科 山内基雄医師からは患者選定・長期管理について、私からは手術の注意点、コツについてお話しさせて頂きました。司会をおつとめ頂きました琉球大学精神科 高江洲義和先生をはじめ、ご参加の多くの先生からご質問を頂き、私たち奈良県立医科大学チームも大変勉強になりました。名嘉村クリニック 名嘉村 敬先生には、講演会後のお疲れのところをクリニック内を内覧させて頂き、睡眠診療体制のお話を頂きました。山内医師も私も施設の素晴らしさに驚くと同時に、名嘉村先生の真摯な姿に感銘を受けました。琉球大学の先生方、名嘉村先生、大変お世話になりありがとうございました。

第3週目は、喉頭科学会2日目 3/8（金）のモーニングセミナーでお話をさせて頂く機会を頂きました。学会長 京都大学 大森教授に感謝申し上げます。朝早くからのセミナーとなりますが、多くの先生方にご参加頂いて、この治療がさらに広く認知されることを期待しています。



2024年3月8日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜午後は5名に対して、5回生1週ポリクリ総括+めまいクルズス。本日の総括は耳鼻咽喉・頭頸部外科の広く万遍のない領域から、真珠腫性中耳炎/鼓室形成術、耳硬化症/アブミ骨手術、耳下腺腫瘍/浅葉部分切除術、甲状腺腫瘍/腫瘍摘出術、副甲状腺機能亢進症/腺腫摘出術と、興味深い症例が割り当てられ、診断と治療に関してしっかりまとめていただきました。

耳鼻咽喉・頭頸部外科では、専攻医は4年間で認可施設研修し専門医試験に合格すれば耳鼻咽喉・頭頸部外科全領域の専門医を取得することができます。この段階で一定のレベルで全領域の疾患に対応できる耳鼻科医になったわけですが、次にどのような道を進むべきか。

耳鼻咽喉・頭頸部外科には、耳科、鼻科、気管食道、音声言語、補聴器、めまい、顔面神経、嚥下、頭頸部癌の各分野において、相談医、認定医、専門医、指導医等の制度が設立されていて、取得できればそれぞれの学会HPで医師氏名が公開され、耳鼻咽喉・頭頸部外科疾患でお困りの県民市民の良き道標になります。

耳鼻咽喉・頭頸部外科はこのようにシンプルかつ奥深いシステムで、これからの時代を背負う耳鼻科医のモチベーションを常に刺激し続けます。

それでは皆様、素敵な週末をお過ごしください。



2024年3月11日

The screenshot shows the homepage of the VHL Japan website. At the top, there is a navigation bar with the title "フォン・ヒッペル・リンドウ病" (Von Hippel-Lindau disease) and the URL "http://www.vhl-japan.com/medical/". Below the title, there are three menu items: "VHL病とは", "患者会", and "VHL病診療の手引き・医療関係者の方". The main content area features a large banner with the text "VHL病診療の手引き・医療関係者の方" and the VHL logo. Below the banner, there is a "HOME" link and a "診療の手引き" (Treatment Guidelines) section. The "診療の手引き" section contains a prominent link for "VHL病診療の手引き 2024年版" (VHL Disease Treatment Guidelines 2024 Edition). Below this, there is a "研究概要" (Research Overview) section. At the bottom, there is a footer with the text "令和4-5年度 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業22FC0101 『フォン・ヒッペル・リンドウ病における実態調査・診療体制構築とQOL向上のための総合的研究』" (Reiwa 4-5 fiscal year, Ministry of Health, Labour and Welfare Scientific Research Fee Grant-in-Aid for Difficult-to-Treat Diseases Policy Research Project 22FC0101, 'Comprehensive Research for Real-World Investigation, Construction of a Clinical Care System, and Improvement of QOL in Von Hippel-Lindau Disease').

Von Hippel-Lindau disease (VHL病)研究班は、京都大学眼科の辻川明孝教授を班長として、2022年度から2年間にわたり、診療手引きの作成、指定難病の申請のため活動して参りました。耳鼻咽喉科領域では、京都大学耳鼻咽喉科の山本典生先生、十名洋介先生には大変お世話になりました。

下記URLでVHL病診療の手引き(2024年版)が公開されたことをご報告申し上げます。

<https://www.vhl-japan.com/medical/>



2024年3月12日

課題管理番号：24dk0310117xxxx

令和5年度中間報告および令和6年度研究計画

I. 基本項目

1-1. 委託事業名/研究開発課題名

事業名：障害者対策総合研究開発事業(身体・知的・感覚器障害分野)

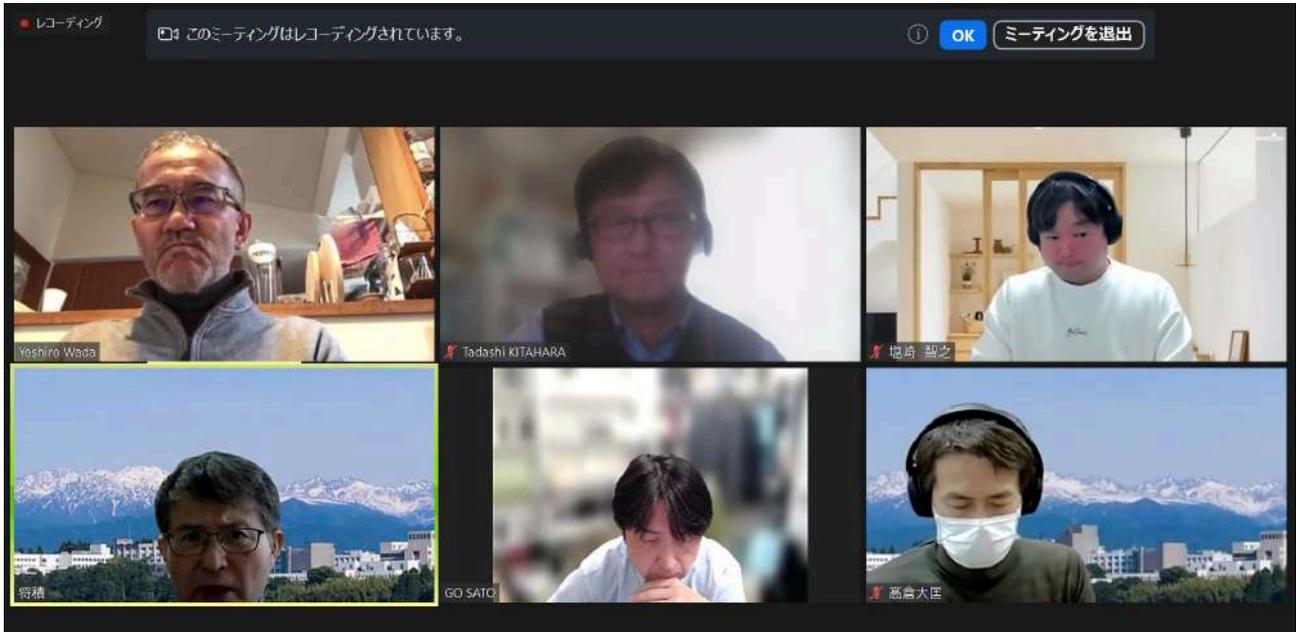
研究開発課題名：慢性めまいの層別化治療と治療装置開発に関する研究

1-2. 分担研究開発課題名

- ・臨床研究用装置の開発に関する研究
- ・臨床研究用装置の治療効果・層別化に関する研究

2. 委託期間 (全研究開発実施予定期間)

令和6年4月1日から令和7年3月31日 (令和4年6月13日から令和7年3月31日)



AMED「慢性めまいの層別化治療と治療装置開発に関する研究」は徳島大学、富山大学、奈良医大の3大学で推し進めています。実施予定期間は令和4年度から3年間、来月から最終年度に突入します。本研究は超高齢社会において非常に重要な新規治療戦略となりますし、理学療法士との連携や前庭リハビリの保険収載といった重要事項が詰まった密度の濃い研究です。データ収集、解析、報告と、つつがなくこなしていきたいと思っております。

2024年3月12日



舌下神経電気刺激療法月間3週目

以下、上村裕和病院教授が報告します。

3/7~3/8にウェスティン都ホテル京都で第36回日本喉頭科学会・学術集会在京都大学大森孝一会長のもと開催されました。本学会2日目のモーニングセミナーにおいて講演をさせていただきました。早朝からのセミナーにも関わらず、約50人の先生方にご参加頂き有難うございました。また、このような講演の機会を与えて頂きました大森孝一会長、司会を頂いた中田誠一先生（藤田医科大学 ばんだね病院 耳鼻咽喉科）、Inspire Medical Systems Japanの皆様に感謝申し上げます。先生方から頂いたご質問は、「植込み型舌下神経電気刺激療法推進委員会」の今後の活動にも反映させていきたいと思っております。このような境界領域における新規治療は、若い先生方が活躍できる場として、また耳鼻咽喉科・頭頸部外科の医師が持つ高い技術力を提供する場として大変重要であると感じています。本治療が多くの患者様に快適な睡眠を届ける治療の一つとしてとして広く普及していくことを願います。



2024年3月12日



嶋 緑倫医学部長からクラブ顧問を引き継がせていただいた社会医学研究会、通称社医研。疾病により学業を長期離脱せざるを得ない小児やその親御さんに寄り添うボランティアが、その活動の中心を成します。本日は6回生5名の追い出しコンパ。自己採点では全員合格とのことなので安心してます。来月から奈良県内や他府県に初期研修医として旅立ちますが、ひと回りもふた回りも大きくなって医大に戻ってきて欲しいですね。引き続きクラブ活動をサポートしていきたいと思います。



2024年3月13日



りされもん氏が奈良医大の耳鼻咽喉科を訪ねて来てくれました。めまいにも興味を持つ初期研修医です。発
信力のある方ですので耳鼻咽喉科の楽しさに触れていただくと嬉しいです。

2024年3月14日

『耳の日』特集

耳の日とは、1978年に制定された。この日は、聴覚障害者に対する社会的理解を深め、聴覚障害者の生活の質を向上させることを目的としている。この日は、聴覚障害者の生活の質を向上させることを目的としている。

聴覚障害は、加齢に伴って起こる。聴覚障害は、加齢に伴って起こる。聴覚障害は、加齢に伴って起こる。

『耳の日』を覚えて

福田 和泰 (ふくだ かずやす)

福田医院 院長

耳に関する講演会と無料相談

日時 令和6年3月14日(水曜日)
午後2時30分～午後4時30分まで

場所 奈良県医師会館(橿原市内南町5-5-8)
近鉄「大和八木駅」より徒歩7分 TEL:0742-22-8502

講演 難聴・ふらつき対策で認知症を予防しよう
奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座 教授 北原 礼

無料相談 耳を介する耳鼻咽喉科全般に関する相談
担当医師 耳鼻咽喉科専門医
*事前予約は不要です。
*当日、会場にて補聴器の相談も行う予定です。

お問い合わせ先
奈良県医師会耳鼻咽喉科部会
TEL:0744-22-8502 / FAX:0744-23-7796

(有)リオン補聴器センター奈良

日本補聴器販売協会加盟店 認定補聴器専門店
営業時間:午前9時～午後5時(日曜・祝日は休みです)

八木店

〒634-0005
橿原市北八木町1-5-9 和世ビル5F A

TEL 0744-25-3341
FAX 0744-25-4365

※ 国道24号線 大和八木交差点
南側からすぐ 契約駐車場有り
電報: 近鉄 大和八木駅改札口を出て
南側 東へ約2分

新大宮店

〒630-8115
奈良市大宮町6丁目7-102
MC新大宮ビル1F

TEL 0742-35-6833
FAX 0742-35-6843

※ 専用駐車場有り
電報: 近鉄 新大宮駅
西へ約200m(徒歩2分)

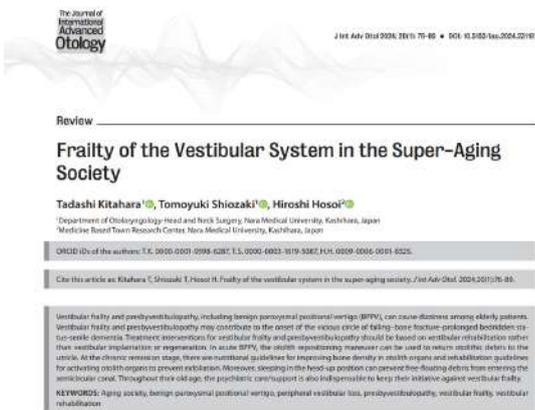


当科は昨年度から、奈良県市民講座の3月を耳鼻咽喉科月間として「難聴・めまい」、8月を頭頸部外科月間として「頭頸部がん」についてわかりやすくお話をさせていただき、さらにお話のあと市民相談会を開催しています。

本日午後2時30分より、奈良県医師会館@大和八木で「難聴・ふらつき対策で認知症を予防しよう」を執り行います。よろしくお願いたします。



2024年3月14日



Prog. Med.

43 : 579~583, 2023

特集

人生100年時代の感覚器の
フレイル対策

5. 平衡覚機能のフレイル (ベスティブルフレイル)

Kitahara Tadashi Hosoi Hiroshi
北原 礼¹⁾ 細井 裕司²⁾

¹⁾奈良医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科科学のめいセンター ²⁾奈良医科大学

本日は木曜日ですが、今井貴夫臨床教授に5回生1週ポリクリの総括&めまいクルズスをお願いしました。今井先生、ありがとうございました。

ところで、奈良医大は医療を基礎とした街作り=Medicine Based Town(MBT)に力を入れています。当科はそのMBTとコラボしてベスティブルフレイル=Vestibular Frailtyというフレーズ(世界初使用)を掲げ、原因不明のめまい症の撲滅と高齢者めまいの克服に取り組んできました。

このたび、その総説がOpen Access論文(J International Advanced Otolology)として掲載されるに至りました。和文著書(Progress in Medicine)と合わせて、お目通しいただければ幸いです。



2024年3月16日

アレルギー疾患医療連携WebセミナーIN 奈良

日時 2024年3月16日(土) 16:00 - 17:40

WEB形式(ZOOM)
開催形式 オンライン聴講:「ZOOM」*視聴事前登録が必要
※登録フォームは裏面を参照

QRコード

Opening Remarks 16:00-16:10
奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 教授 北原 紘 先生

講演 I 16:10-16:50

座長 奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 教授 北原 紘 先生

演者 奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 講師 山下 哲範 先生
「変わりゆく好酸球性副鼻腔炎の治療戦略
-耳鼻咽喉科医から伝えたいこと-」

演者 奈良県立医科大学 呼吸器内科学講座 助教 長 敬翁 先生

「ROAD to Biologics
~耳鼻科の先生との連携も含めて~」

講演 II 16:50-17:30

座長 奈良県立医科大学 呼吸器内科学講座 教授 室 繁郎 先生

演者 大阪赤十字病院 呼吸器内科 医長 森田 恭平 先生
「喘息診療の次の一手 ~連携により雲外蒼天を目指す~」

Closing Remarks 17:30-17:40
奈良県立医科大学附属病院 栄養管理部 教授 吉川 雅則 先生



本日、アレルギー疾患医療連携WebセミナーIN奈良がWeb形式で開催されました。セミナーでは山下講師が『変わりゆく好酸球性副鼻腔炎の治療戦略-耳鼻咽喉科医から伝えたいこと-』につき講演を行いました。今回のセミナーは耳鼻咽喉科と呼吸器内科の合同開催で、特に合併することが多い好酸球性副鼻腔炎と喘息についてスムーズに連携を取りながら治療することを目的として行われました。今必要な知識の共有や連携のあり方を、呼吸器内科の室教授をはじめとした呼吸器内科の先生と議論させていただきました。



2024年3月20日

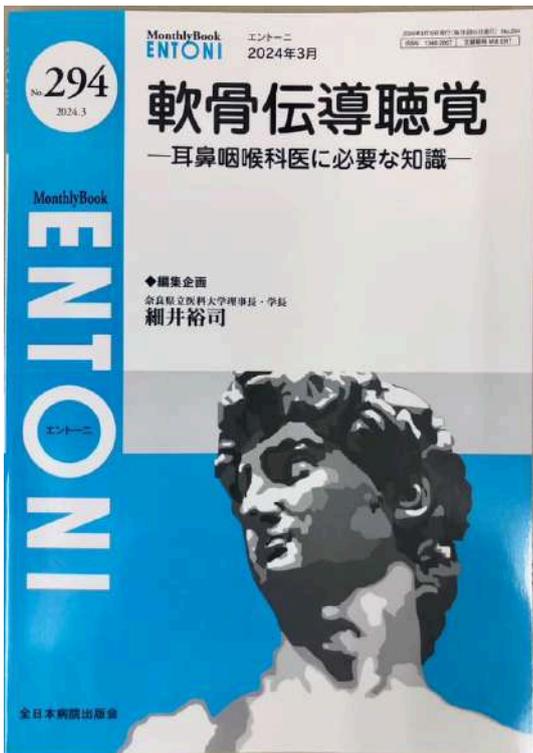




第19回日韓耳鼻咽喉科・頭頸部外科学会KJJMが明日からソウルにて本格的に始まります。本日は北原教授、上村病院教授、山下講師、尾崎助教のメンバーで韓国晋州にあるGyeongsang National Universityに表敬訪問させていただき、北原教授がmini-lectureを行いました。Prof. Seong-Ki Ahn、Prof. Jung Je Park、昨年に奈良医大耳鼻咽喉科に留学していただきましたSomi Ryu先生などをはじめ、Gyeongsang National Universityの関連病院の先生方にもお集まりいただき大歓迎していただきました。



2024年3月21日

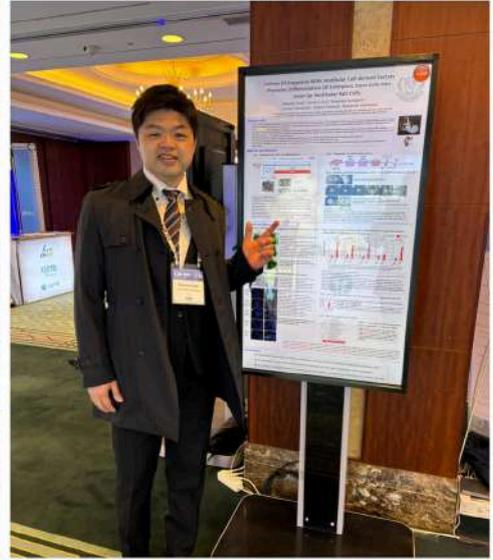


今週は日韓耳鼻咽喉科・頭頸部外科学会KJJMのソウル開催のため、奈良医大から多くのスタッフが出張不在にしておりますゆえ、奈良県西和医療センターの金田宏和部長・臨床教授にご無理申し上げ、ポリクリ総括を実施いただきました。医大生にとっても、非常に貴重な回になったと思います。金田先生、ありがとうございました。

同時に細井裕司奈良医大理事長・学長の企画された軟骨伝導聴覚特集が、ENTONIから発刊されました。この夏7月13日土曜に主催担当させていただく、耳鳴難聴研究会および軟骨伝導研究会の合同開催@慶應大学医学部附属病院の方も併せて、よろしく願い申し上げます。



2024年3月23日



第19回日韓耳鼻咽喉科・頭頸部外科学会KJJMが2日間にわたり、韓国ソウルで開催されました。北原教授がシンポジウムの座長を務め、上村病院教授、山下講師、ベルランド総合病院の今井先生がシンポジウムで講演しました。

また、尾崎助教とベルランド総合病院の木村医師もeポスターにて参加しました。

2024年3月26日

表2 研究支援員配置制度を利用した女性研究者・医師26名のキャリア形成

部門	No.	所属	制度利用	職位		科研費獲得状況			配置後の状況
					配置申請後	配置申請時	配置申請後	2023年度	
基礎医学教育部門 教養教育	1	細菌学 免疫学	終了	助教		○	基盤研究(C)4回	○	
	2	生物学	終了	講師		○	基盤研究(C)2回	○	
	3	解剖学第二	終了	助教		○	基盤研究(C)	退職者	第2子出産後、復職 退職(R3.3)他大学転出
	4	解剖学第一	継続中	助教	講師昇任		若手研究(B)2回 基盤研究(C)2回	○	第13回女性研究者学術研究 奨励賞受賞
	5	分子病理学	継続中	助教	講師昇任	○	若手研究		第1子出産後、復職 博士学位取得(R4.3)
臨床医学教育部門	6	呼吸器内科学	終了	助教	講師昇任		基盤研究(C)2回	○	H26.4～女性研究者・医師 支援センターマネージャー
	7	呼吸器内科学	終了	診療助教	助教採用		若手研究(B) 基盤研究(C)	退職者	第2子出産後、復職 本学退職し県内医療機関に 転出(R元.9)
	8	皮膚科学	終了	助教					第2子出産後、復職
	9	放射線診断・IVR学	終了	診療助教	助教採用	○	若手研究、基盤研究(C)	○	
	10	循環器内科学	終了	診療助教					第3子出産後、育児休業中
	11	病理診断学	継続中	診療助教	助教採用 講師昇任		若手研究2回	○	第2子出産後、復職 博士学位取得(R2.3) 第9回女性研究者学術研究 奨励賞受賞
	12	総合画像診断センター	継続中	診療助教	助教採用				第2子出産後、復職
	13	小児科学	継続中	診療助教	助教採用		若手研究2回	○	第2子出産後、復職 博士学位取得(R3.3)
	14	消化器・総合外科学	継続中	診療助教	助教採用		若手研究	○	博士学位取得(R3.3)
	15	脳神経内科学	継続中	准教授			基盤研究(C)	○	
	16	皮膚科学	継続中	助教		○	若手研究2回	○	第10回女性研究者学術研究 奨励賞受賞
	17	循環器内科学	継続中	助教			若手研究	○	
	18	小児科学	継続中	助教		○	若手研究		第11回女性研究者学術研究 奨励賞受賞
	19	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	継続中	診療助教	助教採用	○	基盤研究(C)	○	
	20	糖尿病・内分泌内科学	継続中	病院助教	助教採用	○	基盤研究(C)	○	
21	産婦人科学	継続中	診療助教	助教採用		若手研究	○	博士学位取得(R4.3)	
看護学科	22	母性看護学	終了	准教授	教授発令		基盤研究(C)2回	○	
	23	母性看護学	終了	准教授	教育教授 称号付与	○	基盤研究(C)	退職者	定年退職(H30.3)
	24	公衆衛生看護学	終了	助教	講師昇任		挑戦的萌芽研究	退職者	退職(R2.12)他大学転出
	25	在宅看護学	終了	助教	講師昇任		基盤研究(C)2回	○	
	26	母性看護学	終了	講師		○	若手研究、基盤研究(C)	○	第1子出産後、復職

奈良医大では女性研究者・医師支援センター「まほろば」が、妊娠・出産、育児、不妊治療、介護等のライフイベントにより、研究時間を十分に確保できない女性研究者・医師に対して、研究支援員を配置してくれます。当科においてもこの制度を利用させていただき、助教昇進、科研費獲得という良い結果を得ることができました。医大生に占める女性の割合も年々上昇する中、非常に重要な支援制度と考えます。



2024年3月29日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜午後は今年度最後の5回生1週ポリクリ総括+めまいクルズス。本日の総括は、中咽頭、甲状腺、副甲状腺と主座を異にする頸部腫瘍3症例に対して、診断と治療をしっかりまとめてくれました。

来年度になると、4月に関西医大が免疫アレルギー学会@枚方、5月に大阪大学が日耳鼻総会学術講演会@中之島、6月に福井大学が耳鼻咽喉科臨床学会@福井と、毎月各地で耳鼻咽喉科関連の全国学会が開催されます。そろそろ医大生を耳鼻科の全国学会に連れて行く、往年の学外イベントが復活すれば、耳鼻科の面白さをさらに伝えられるのではないかと期待します。

土日の天気はまずまずですが、桜はまだまだですね。皆様、良い週末をお過ごしください。



2024年3月30日



3月31日付けで、尾崎大輔先生、田中瑛久先生がそれぞれ異動されることになりました。尾崎先生は奈良県総合医療センターのスタッフになり、田中先生は国立癌センターでの研修が新しく始まります。また、B8病棟では霧下師長、木村主任を含め5人のスタッフが退職・異動することになりました。みなさまの新しい道でのさらなるご活躍を期待いたします。



2024年4月2日

第9回 耳鳴・難聴研究会
第6回 軟骨伝導聴覚研究会

Tinnitus
and
Cartilage
Conduction

2024年7月13日 会場 慶應義塾大学病院
〒160-8582 東京都新宿区信濃町35 Tel 03-3353-1211

第9回 耳鳴・難聴研究会 担当世話人 北原 礼
第6回 軟骨伝導聴覚研究会 担当世話人 細井 裕司

事務局 〒634-8522 奈良県橿原市四条町 840
奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学教室
Tel 0744-22-3051(内線 医局3435) Fax 0744-24-6844

第9回耳鳴・難聴研究会ならびに第6回軟骨伝導聴覚研究会を2024年7月13日(土)に慶應義塾大学病院で同日・同会場開催いたします。今年は奈良県立医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学教室が事務局を担当させていただきます。

両研究会とも演題募集期間の締め切りが迫ってまいりました。耳鳴・難聴、軟骨伝導聴覚に関する多くの演題を募集しております。活発な議論ができますよう、皆様からの演題ご登録と研究会ご参加を心からお待ち申し上げます。

耳鳴・難聴研究会 演題提出先 jimei9th@naramed-u.ac.jp

軟骨伝導聴覚研究会 演題提出先 t-nishim@naramed-u.ac.jp



2024年4月9日



当科・診療助教の西村 在先生が今年度からめでたく、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医に認定されました。

西村先生は静岡がんセンターで3年間修行を重ね、奈良医大にて今日を迎えました。奈良県では16人目。耳鼻咽喉科医としては唯一無二の存在です。



2024年4月12日



めまいで困っていませんか?
めまいの原因を判断するフローチャート

めまいの原因を判断するフローチャート

START

めまいの原因を判断するフローチャート

耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜午後は令和6年度最初の5年生1週ポリクリ総括+めまいクルズス。総括は、慢性中耳炎および慢性副鼻腔炎の機能改善術、耳下腺腫瘍および甲状腺腫瘍の腫瘍摘出術をしっかりとめてくれました。

クルズスは、迅速で正確な診断と治療のコツに加え、超高齢社会においてセルフケアで予防することも重要としました。先月末に信濃毎日に掲載されました、信州大学による「耳の日めまい講演」の記事を紹介したいと思います。新年度に入り暖かい日が多くなってきました。食事会・飲み会が増える予感の週末。いよいよ楽しい季節の到来です。



2024年4月13日





今週4月11日木曜から3日間、第4回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会が、大阪府枚方市の関西医大キャンパス内ホールにて開催されました。岩井大大会長を盛り上げるべく、奈良医大から岡安唯講師、西村在診療助教とともに参加させていただきました。関西医大医局の先生方、ありがとうございました。

ところで私、北原は幼い頃から約30年間、実家のある枚方に住んでいましたので、私史上初の枚方開催の全国学会に参加できて嬉しく思っています。

子供の頃、当時全国でもここ京阪交野線高架下には無かった貸しレコード兼貸し漫画本の蔦屋1号店に、足繁く通ってました。ちなみに、現在その場所には王将がお店を構えています。そして蔦屋はTSUTAYAとして大きく成長し、枚方市駅前に立派なT-SITEを建てるに至っています。

2024年4月18日



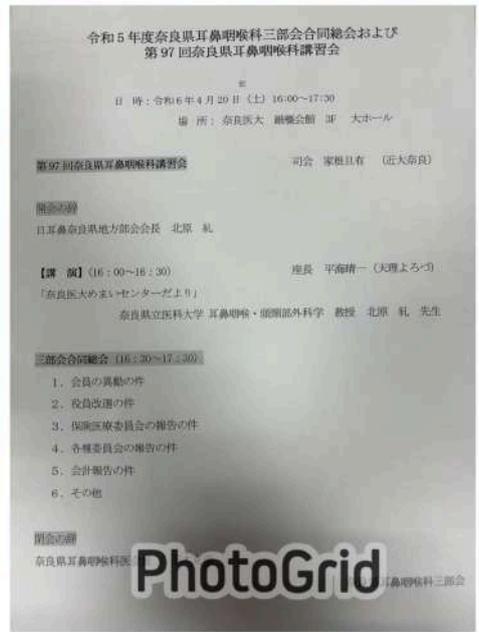
耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。明日は学術雑誌の編集会議にて東京出張ですので、本日本曜午後5
回生1週ポリクリ総括+めまいクルズスをさせていただきました。総括では異なる耳硬化症症例それぞれと睡眠時無呼吸症、甲状腺腫瘍、副甲状腺腫瘍の診断と治療をまとめていただきました。

昨今、学生授業・学生実習の一部を英語で実施するような指導が来ておりますゆえ、本日のめまいクルズス
では、当科めまい検査入院を英語で紹介する動画(<http://www3.nhk.or.jp/nhkworld/en/shows/2050142/>)、BPPV
浮遊耳石置換法の実施手順を英語で解説する動画(<https://www.youtube.com/watch?v=9SLm76jQg3g&t=1s>)
を交えて勉強していただきました。

それでは皆様、良い週末をお過ごしください。



2024年4月20日



令和5年度奈良県耳鼻咽喉科三部会合同総会および第97回奈良県耳鼻咽喉科講習会が奈良医大厳樞会館にて開催されました。今年の講演では北原教授が『奈良医大めまいセンターだより』として、めまい診断の基礎から病診連携の在り方までを丁寧に説明いたしました。



2024年4月25日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。明日は学会で上海出張なので、本日本曜午後に5回生1週ポリクリ総括+めまいクルズスをさせていただきました。総括では伝音難聴に対する試験開放からの耳小骨連鎖再建症例、両側高度感音難聴に対する両側人工内耳植込症例、睡眠時無呼吸症に対する舌下神経刺激装置植込症例、甲状腺腫瘍に対する腫瘍摘出症例の診断と治療をまとめていただきました。非常にバラエティに富んだ耳鼻咽喉科の醍醐味を総括させていただきました。

いよいよ週末から、コロナ明け2024年のGWが始まります。皆様、まずはステキなGW前半をお過ごしください。



2024年4月27日







2020年からコロナで延期になっていたthe 8th International Symposium on Ménière's Disease and Inner Ear Disordersが、ようやく4年越し、4月26日fri-28日sunにかけて、上海国際会議中心にて開催されました。とても素晴らしいおもてなしの中、メニエール病における内耳造影MRIのパネルを無事終えることができました。

3年後の2027年は、いよいよ東京で開催されることになったようです。



2024年5月1日



昨日、関連病院である日本生命病院@大阪市西区に出張し、メニエール病の外科手術をお手伝いさせていただきました。現在、耳鼻咽喉科部長を小泉敏三先生、頭頸部外科部長を金澤成典先生にお任せし、専門医である柳田真希先生とともに盛り上げていただいています。三木章平理事長をはじめ、笠山宗正名誉院長、立花功院長に親切にご対応いただき、感謝申し上げます。

この日、奈良医大での勤務がちょうど10年経過しました。お陰様でメニエール病の手術も500例を超え、ストレスと内リンパ水腫とメニエール病の関係も少しずつわかってきました。今後さらに、メニエール病新薬にも挑戦していきたいと考えます。



2024年5月17日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。今週は大阪中之島の国際会議場で日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会開催中なので、本日金曜は午前5回生1週ポリクリ総括+めまいクルズをさせていただきました。総括では骨融解を伴う真珠腫性中耳炎2症例、甲状腺濾胞性腫瘍1例、下咽頭K頸部郭清1例、それぞれ診断と治療に少々手こずる症例をうまくまとめていただきました。

今後とも耳鼻咽喉・頭頸部外科学をよろしくお願いします。

午後は大阪中之島に参ります。



2024年5月18日







2024年5月15日（水）～18日（土）の日程で『第125回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会』が大坂国際会議場にて開催されております。

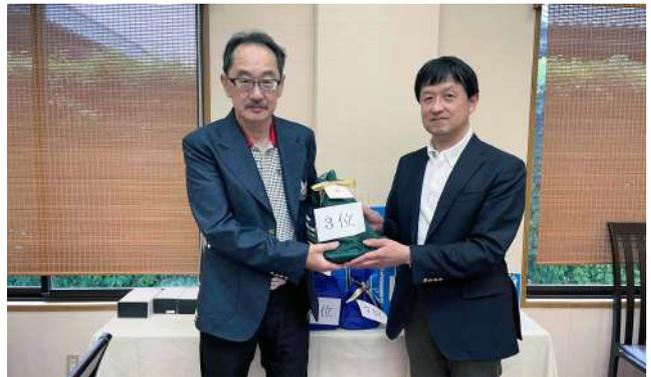
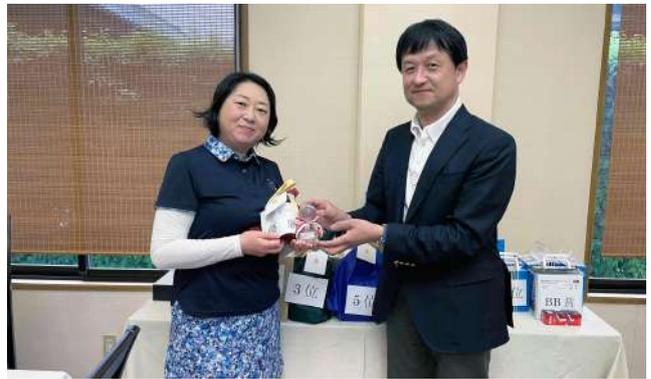
当科から中道医師が、突発性難聴患者と前庭神経炎患者における半規管障害の違いについて口演しました。中道医師は今回が学会初口演でしたが、質疑応答も立派に務めてくれました。また大塚診療助教と西村講師が、軟骨伝導補聴器に対する公的な支援の現状について報告しました。

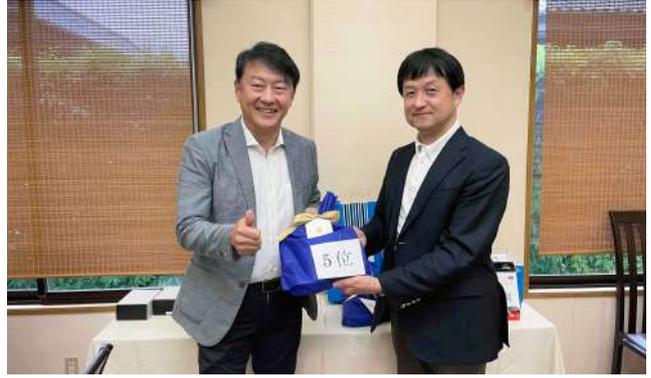
シンポジウムでは上村病院教授と北原教授が登壇し、それぞれ、口腔がんの診療の今後の有り方について、そしてめまい診療における診断のプロセスについての講演を行いました。両講演とも質疑応答では熱い議論が交わされ、全国の先生方の関心の高さがうかがわれました。

学会開催にご尽力いただきました猪原秀典会長および大阪大学の皆様にはこの場を借りて厚く御礼申し上げます。



2024年5月20日





令和6年5月19日日曜日、第8回叡火会ゴルフコンペが天野山カントリークラブで開催されました。昨年の三重・島ヶ原に続き、今年の堺・天野山もこのコンペでは初コース。天気はOUTからINにかけて終始続くあいにくの雨模様でしたが、年一のイベントということもあって例年通り多くの同窓の先生方にお集まりいただきました。

レギュラーの部では常に安定感のあるプレーをされる菊岡政久先生、田辺修一先生、土谷利次先生がこの順で順位を分けました。レディースの部では松村八千代先生が昨年に引き続き優勝しました。おめでとうございます。

年々参加者の平均年齢が上昇しておりますので、是非とも北野先生、衛藤先生あたりの学年の先生方にこのコンペを盛り上げていただければ嬉しく思います。



2024年5月24日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜午後は5回生1週ポリクリ総括+めまいクルズス。本日の総括は、慢性中耳炎に対する鼓室形成術、睡眠時無呼吸に対する口蓋扁桃摘出/咽頭扁桃切除術、IgA腎症に対する病巣扁桃摘出術、顎下腺腫瘍に対する腫瘍摘出術について、いずれも良性疾患であるがゆえの注意点について、しっかりまとめてくれました。

教務課のご尽力により、例年になく教育カリキュラムの進行がスムーズで、1週ポリクリ終了まであと数グループ。この段階で、次の選択ポリクリの行先はまだ決まっていません。当然そうあるべきなのですが、非常にうれしいことです。

来月の頭頸部癌学会、耳鼻咽喉科臨床学会、再来月の耳鳴難聴研究会、軟骨伝導聴覚研究会など、耳鼻咽喉科の学会/研究会には是非、今後の耳鼻科候補生を連れていきたいと思います。

それでは良い週末をお過ごしください。



2024年5月28日

今始まる...
入局への物語が。

奈良県立医科大学
耳鼻咽喉・頭頸部外科
医局説明会

ORL-HNS
SINCE 1945

医局説明会
2024年7月17日
(Wed) 18:00~

場所 耳鼻咽喉・頭頸部外科 医局

お問合せ Mail: orl@naramed-u.ac.jp (担当 山下)
Tel(医局): 0744-29-8887 (内線 3435)

懇親会がありますので奮ってご参加ください!!

本年度の医局説明会を2024年7月17日(水) 18:00から耳鼻咽喉・頭頸部外科医局において開催させていただきます。

対象は初期研修医・医学生となっておりますが、後期研修医や奈良医大耳鼻咽喉科で一緒に働きたいと考えている先生方も大歓迎です。説明会後場所を移動して懇親会も行います。参加希望の方は耳鼻科医局（内線: 3435）にご連絡いただければ幸いです。なお、遠方の方でwebでの参加をご希望される方は前日までに耳鼻咽喉科医局までご連絡お願いいたします。

(担当: 山下)



2024年1月20日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜午後は恒例の5回生1週ポリクリ総括+めまいクルズスを実施しました。本日の総括は、鼓室形成術の型について、口蓋扁桃摘出術の合併症、甲状腺Kの組織型とその特徴について、しっかりまとめてくれました。

長年めまい診療に取り組んで参りますと、自分の中に2つのまったく逆方向を向いたモチベーションが高まってくるのに気づきます。一つは「まだ誰も明らかにすることができていないめまい疾患の発症メカニズムを解明したい」というモチベーションと、もう一つは「どんなレベルの耳鼻科研修医でもソツ無くこなせるめまい疾患の扱い方を確立したい」というモチベーションです。後者について賛否はあると思いますが少し、略号の説明も無いままに書き記します。

めまい患者さんから聞き出すべき問診事項は最低この2つ、めまいの自発性/誘発性とめまいの持続時間。自発性めまいは患者さんが何をしているわけでもなく急に襲ってくるめまい、誘発性めまいは患者さんが物理的に何か動作をしたときに引き起こされるめまいでその動作を止めればめまいも止まるというもの。よって、自発性めまいは「先月は何回、それぞれ何時間のめまいがした」とはっきり言えるのが自発性めまい。それがわかれば九分九厘、VP、MD、VM、VN/SDVのいずれか、めまい持続時間で正解を導くことができます。「ずーっとふわふわしている、何回とは数えられない」ならそれは誘発性めまい。おそらくクリニックを訪れるめまい患者さんの大半は後者でしょう。それがわかれば九分九厘、BPPV、OD、VPD、PPPDのいずれか、つまり4者択一と言えます。ここまで来ればあと一息、それぞれ想定した疾患を裏付ける検査を行うか、それができる施設に紹介するか。この単純明快なstrategyに辿り着くことができれば=この大雑把な考え方を受け入れることができれば、日々のめまい診療のストレスは消えます。すべてを機械的に進めることができるからです。

ちなみに、曲がりなりにも診断ができたところで、治療でめまいを改善させることができなければ、それがまた大きなストレスになってしまいますが、ご安心ください。BPPVとODはヘッドアップ就寝が効果的ですし治療的診断にも有効です。VPDは理学療法士の前庭リハビリテーション。つまりは、誘発性めまいの上位3疾患はめまい止めを出して帰宅させても、なかなか治らない(当たり前)のでお気を付けてください。大雑把でも良いから診断を付けることが肝要です。第4位のPPPDは、まだまだ客観的検査や効果的治療法が見つかっていませんので手こずります。新潟大学のその後に期待します。

それでは良い週末をお過ごしください。

2024年6月7日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜午後は恒例の5回生1週ポリクリ総括+めまいクルズスを実施しました。本日の総括は、鼓室形成術の病勢による再建型について、小児睡眠時無呼吸の特徴と手術適応、甲状腺手術の合併症と対策について、しっかりまとめてくれました。

昨日、6月6日は「芸事の日」。芸事の稽古は6歳の6月6日に始める、というならわしに由来します。先日、全米女子オープンでワンツーフイニッシュを飾った笹生優花選手、渋野日向子選手。素晴らしい活躍でしたが、彼らもこの頃からゴルフを始めたとのこと。

芸事と言って良いかわかりませんが、手術技量についてはどうか。今年3月に亡くなられた「神の手」として知られる脳神経外科医・福島孝徳氏。やはりこの頃、戦後何も無かった時代に母親から教えられた折り紙をひたすら折って遊んでいたとのこと。何事も早いうちからの準備が必要かも知れません。

週末は天気も良く夏日になりそうな勢いです。それでは良い週末をお迎えください。



2024年6月11日



奈良医大耳鼻咽喉・頭頸部外科

@nmu_orl_hns

奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科
の公式アカウントです。診療、臨床、研
究活動について発信していきます。

Instagram [@NMU_ORL_HNS](#) facebook

[facebook.com/otolaryngology...](#)

📍 奈良県橿原市四条町 840



奈良医大耳鼻咽喉・頭頸部外科

奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科
奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科
の公式Instagramです。診療・研究活動に
ついて発信しています。

[oto.naramed-u.ac.jp](#)

📧 メッセージを送信...

このたび当科ではFacebookのみならず、X(旧Twitter)、Instagramを通して広報活動していくこととなりました。

アカウントは以下のとおりです。

X(旧Twitter) https://x.com/nmu_orl_hns

Instagram https://www.instagram.com/nmu_orl_hns/

今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



2024年6月14日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜午後は恒例の5回生1週ポリクリ総括+めまいクルズスを実施しました。本日の総括は、真珠腫性中耳炎のstageと鼓室形成術のtypeについて、慢性副鼻腔炎の内視鏡手術のtypeについて、好酸球性副鼻腔炎の病態-診断-治療について。耳鼻咽喉科における顕微鏡を用いた耳科手術、内視鏡を用いた鼻科手術、抗体製剤を用いた指定難病治療をしっかりとめてくれました。

本日のめまいクルズスはBPPVとメニエール病。いずれもここ30年ほど新薬が出ること無く業界が停滞傾向である現状を踏まえ、みんなで新しい治療法の可能性を考え意見を出してもらいました。考える医師を目指したいですね。

来週は頭頸部癌学会@浜松、再来週は耳鼻咽喉科臨床学会@福井とバタバタしますが、良い週末をお過ごしください。



2024年6月19日



嶋 緑倫医学部長からクラブ顧問を引き継がせていただいた社会医学研究会、通称社医研。疾病により学業を長期離脱せざるを得ない小児やその親御さんに寄り添うボランティアが、その活動の中心を成します。新入部員が14名入ったとのことで、本日は大和八木の木曽路で新歓コンパ。引き続きクラブ活動をサポートしていきます。



2024年6月21日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜午後は恒例の5回生1週ポリクリ総括+めまいクルズスを実施しました。本日の総括は、小児人工内耳の適応基準、甲状腺腫瘍の分類、顎下腺腫瘍の分類、扁桃摘出術の術中術後合併症について、しっかりまとめてくれました。

本日のめまいクルズスは「新築マンションを購入したけれど床が少し傾いていて帰宅すると頭痛やめまいがする案件」、「宇宙飛行士が訓練を受けたにもかかわらず宇宙空間で宇宙酔いしてしまう案件」を、どうすれば克服できるかみんなで考えてもらいました。解答は奈良医大耳鼻科YouTube「めまい患者さん向けセミナー①：10分でわかるめまいのしくみ」をご確認ください。

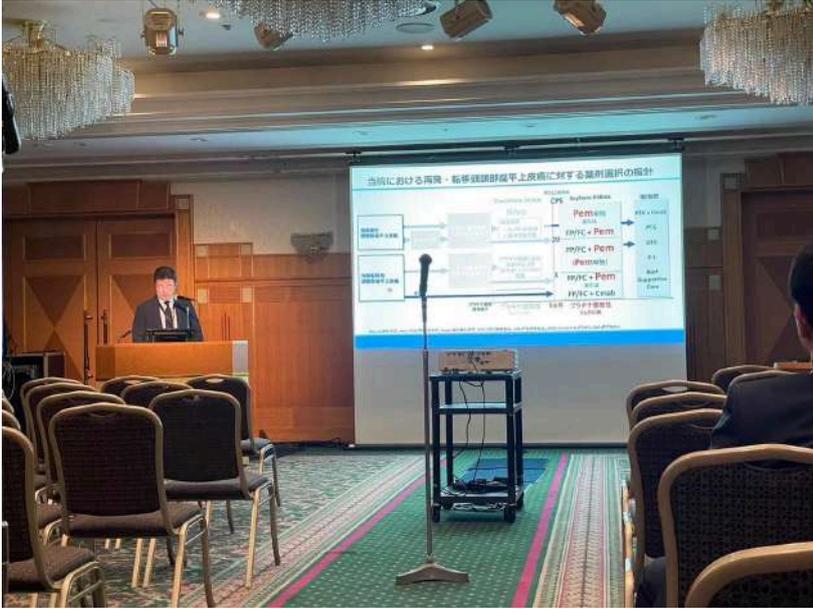
<https://www.youtube.com/watch?v=Mh-jto1Tn9w>

放課後はSNS動画コンサルタント・ライソン佐藤氏、初期研修医・りさレモン先生、白檀祭実行委員・亀岡君(撮影者：実行委員長・朝井君)に、耳鼻咽喉科外来にお集まりいただき、耳鼻咽喉科勧誘かつめまい診療教育につながる「白檀祭x耳鼻咽喉科コラボ企画」を進めています。それでは良い週末を。



2024年6月21日





2024/06/20-21に開催された第48回頭頸部癌学会に参加してきました。

当科からは木村助教、西村診療助教、石田医員が参加し、口演2演題、ポスター1演題、シンポジウム1演題を発表しました。関連施設では、近大奈良病院、ベルランド総合病院からも計3演題を発表しました。また初期研修医も1名参加しました。

引き続き、当科からの学術、研究活動の発信を続けて参ります。



2024年6月23日



昨日午後、ホテル日航奈良において、第33回奈良県耳鼻咽喉科感覚医学講習会が、現地+web配信によるハイブリッド開催されました。

特別講演1：和歌山県立医科大学耳鼻咽喉科・講師の大谷真喜子先生に「スポーツと耳鼻咽喉科」、特別講演2：国際医療福祉大学医学部耳鼻咽喉科・教授の野口佳裕先生に「めまい・難聴に関連する遺伝子」をご講演いただきました。

いずれもスポーツと感覚医学、遺伝子と感覚医学という、これまでにない切り口の興味深い講習会になりました。



2024年6月27日



本日は多くの医局員が耳鼻臨床@福井に出張していますので、今井貴夫臨床教授に今期最終のポリクリ総括とめまいクルズズをお願いしました。

明日は奈良も福井も雨模様です。

2024年6月29日



奈良医大からは西村病院教授、山下講師、塩崎学内講師、大塚診療助教、衛藤医員、石田医員が参加し、ポスターでの演題発表を行いました。関連病院からも多数の演題を発表させていただき、また3名の初期研修医も学会に参加させていただきました。

お天気は初日が生憎の雨、2日目は快晴で気温があがり両極端な二日間をすごさせていただきました。駅前には沢山の動く恐竜の像や骨格模型が立ち並んでおり、恐竜王国福井の勢いを肌で感じる事が出来ました。福井大学耳鼻咽喉科の関係のみなさまに厚く御礼申し上げます。

そして、奈良医大が担当させていただきます第87回耳鼻咽喉科臨床学会学術講演会まで一年を切りました。たくさんの演題登録をお待ちしております。

2024年7月10日

Received 28 October 2023 | Revised 17 April 2024 | Accepted 8 June 2024
DOI: 10.1002/lary.25295

ORIGINAL RESEARCH

Laryngoscope
Investigative Otolaryngology

Gray-tone appearances on 4-hour delayed gadolinium-enhanced magnetic resonance imaging indicate severe inner ear pathology and symptoms in sudden sensorineural hearing loss

Toshiizo Koizumi MD, PhD¹ | Toru Seo MD, PhD² | Kazuya Saito MD, PhD³ | Hiroto Fujita MD, PhD¹ | Tadashi Kitahara MD, PhD⁴

¹Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Nara Medical University, Nara, Japan
²Department of Otolaryngology, St. Marianna University Yokohama City Hospital, Yokohama, Japan
³Department of Otolaryngology, Iwate City General Hospital, Iwate, Japan
⁴Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Nara Medical University, Gortihara, Japan

Correspondence: Toshiizo Koizumi, Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Nara Medical University, 1-1-1, Kasuga, Nara, 634-8522, Japan. Email: koizumi@naramed-u.ac.jp

Abstract
Objective: Hybrid of reversed image of positive endolymph signal and negative image of perilymph signal (HYDROPS) in delayed gadolinium-enhanced magnetic resonance imaging (DGE) typically depicts normal inner ear as "white-tone" and endolymphatic hydrops as "black-transparent" appearances, whereas deaf with auditory and vestibular disorders are occasionally depicted as "gray-tone." This study aimed to investigate the pathological basis of sudden sensorineural hearing loss (SSNHL) patients with "gray-tone" appearances on HYDROPS.
Methods: Delayed gadolinium-enhanced MRI examinations were conducted on 25 subjects with unilateral SSNHL. We mainly analyzed positive perilymph image (PPI) and positive endolymph image (PEI), which were components HYDROPS.
Results: On PPI, signal intensity (SI) values extracted from the cochlear and vestibular region of interest (ROI) were higher in the SSNHL cases with ataxic/vertigo symptoms at the first visit compared to the healthy ear. Additionally, the PPI/PEI enhancement pattern in the vestibule was associated with a high prevalence of hearing and vestibular deteriorations at the first visit and poor hearing improvement after treatment.
Conclusion: Enhancement on PPI/PEI may result from leakage of gadolinium into the inner ear following breakdown of the blood-labyrinth barrier, with high SI being correlated with the amount of leakage. Particularly, a significant leakage into the endolymphatic space, defined as PPI-/PEI+, indicates severe inner ear pathology. Ultimately, we emphasize that the "gray-tone" appearance in the inner ear is



KOIZUMI ET AL. | Laryngoscope: Investigative Otolaryngology | 7 of 8

TABLE 3 Classification of SSNHL Peri- and Endolymphatic Image Enhancement pattern in Delayed gadolinium-enhanced MRI (SPEED).

SPEED classification	Appearance on HYDROPS in cochlea and vestibule ^a	PPI/PEI enhancement pattern ^b	Evaluation/Prognosis
SPEED 0	White-tone 	PPI-/PEI- PPI-/PEI-	Hearing outcome after treatment: better
SPEED 1	Gray-tone 	PPI+/PEI+	Hearing outcome after treatment: poor
SPEED: EH (endolymphatic hydrops)	Black-transparent 	PPI-/PEI+	Suspected of Meniere's disease, probably not SSNHL

Abbreviations: HYDROPS, Hybrid of reversed image of positive endolymph signal and negative image of perilymph signal; PEI, Positive endolymph image; PPI, Positive perilymph image; SSNHL, Sudden sensorineural hearing loss.
^aWhenever "gray-tone" or "black-transparent" appearances are detected on HYDROPS, the components, PPI and PEI, should be confirmed.

当科主要関連病院の一つ、日本生命病院 小泉敏三部長の手掛けた論文が、このたびLaryngoscope Investigative Otolaryngology誌にpublishされました。

突発性難聴の内耳造影MRI所見において、蝸牛や前庭に灰色調の像を認める場合、発症時の難聴が高度でめまいも併発し聴力改善度に影響するなど、病理病態の重症度を示唆することがわかりました。

これまで治る治らないに関わらず一括りにされてきた突発性難聴の病理病態が、今後はこの論文の提唱する『SPEED分類』によって細分化される可能性があります。また、画像所見から疾患予後を推測できることになり、患者への病状説明の根拠として重要な内容になると考えます。

Open Access誌ですので、まずはご一読ください。



2024年7月11日



The 19th Annual Meeting of Japan Society for Pediatric ORL

第19回 日本小児耳鼻咽喉科学会 総会・学術講演会

こどもたちの健やかな未来のために

会期 2024年7月11日(木)~7月12日(金)

会場 シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢 (伊勢市観光文化会館)

会長 竹内 万彦 (三重大学耳鼻咽喉・頭頸部外科)

副会長 平山 雅浩 (三重大学小児科)



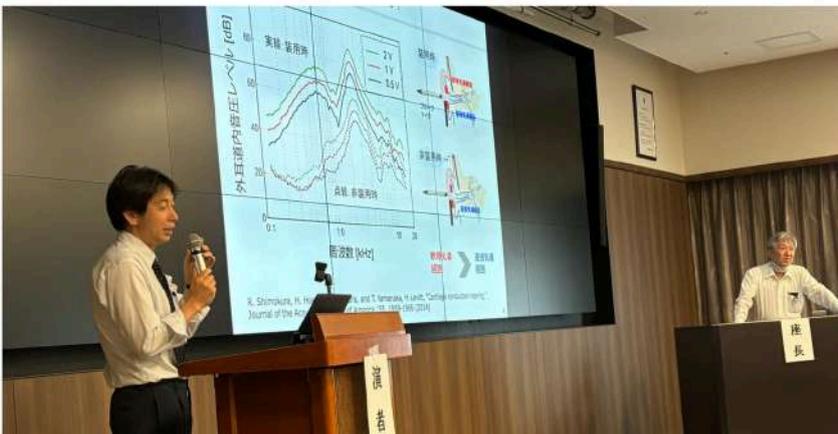
2024年7月11日・12日の日程で、三重県シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢にて第19回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会が開催されています。当科からは北原教授が耳科セッション座長、森本助教が聴覚セッションで聴力精査開始の遅れた高度、重度難聴児の報告を行いました。また関連病院の高井病院から覚道医師が参加しています。

2000年の歴史を有する伊勢神宮からも近しい会場には、耳鼻科医のみならず小児科医、言語聴覚士の先生方の参加も多く見られます。

本学会の開催に御尽力くださった三重大学耳鼻咽喉・頭頸部外科と小児科の先生方に感謝申し上げます。



2024年7月13日

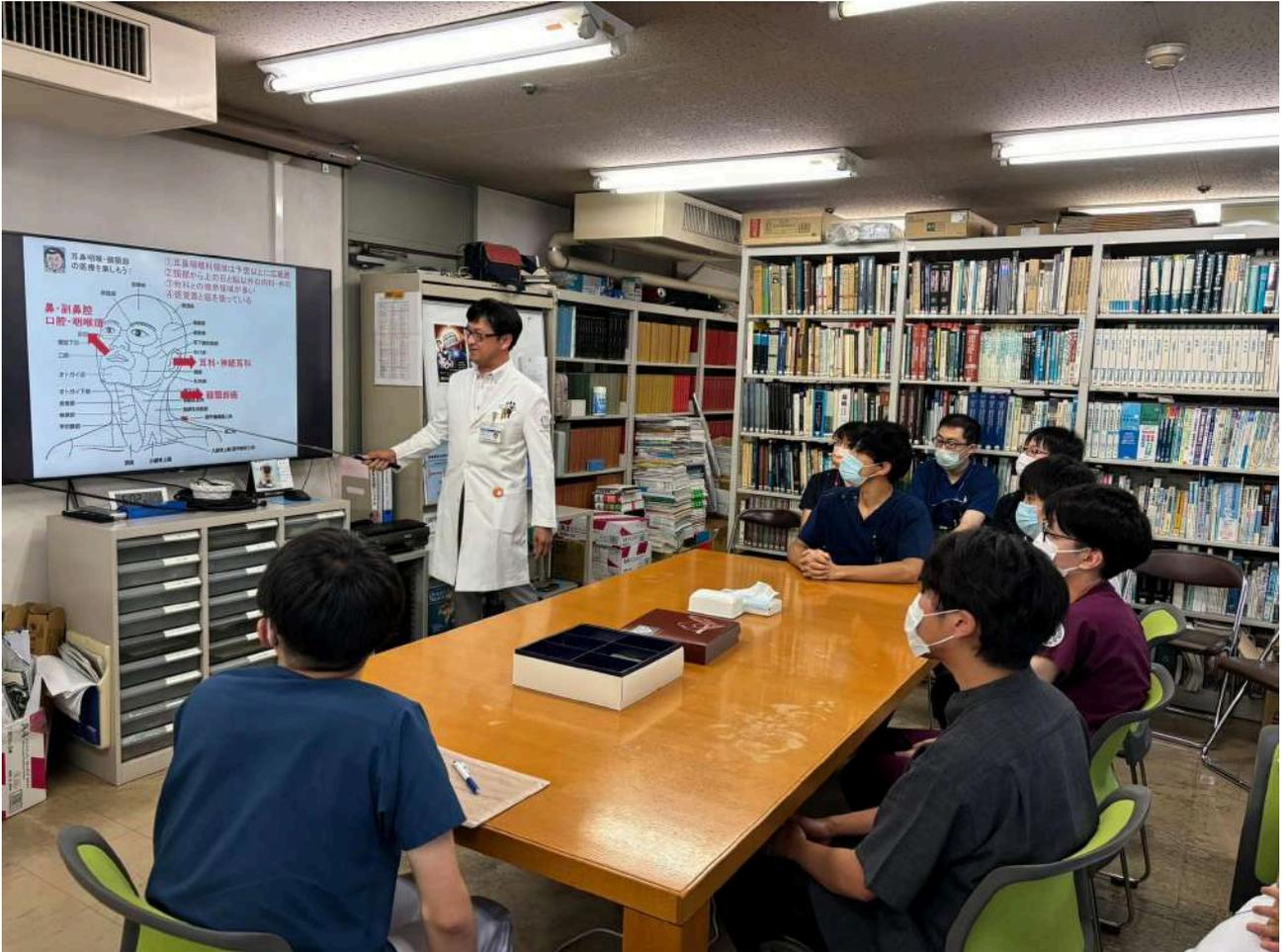


第9回耳鳴・難聴研究会ならびに第6回軟骨伝導聴覚研究会が本日、慶應義塾大学病院にて開催されました。今年には両研究会ともに、奈良県立医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学教室が事務局を担当させていただきました。

同日、同会場開催ということもあり、両研究会共に例年にましてたくさんのご参加をいただいたこともあり、多くの質疑応答をいただき活発な議論ができました。本当にありがとうございました。

最後になりましたが、土曜日にもかかわらず会場をご提供いただきました慶應義塾大学耳鼻咽喉科の皆様には厚く御礼申し上げます。

2024年7月18日



昨日、奈良県立医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座の医局説明会を開催させていただきました。今年は初期研修医だけでなく興味を持っていただきました学生さんにもご参加いただきました。

今後も随時研修、見学、入局相談等を行わせていただきます。お気軽にお問い合わせいただければ幸いです。

(担当:山下)



2024年7月20日

第2回 南阪奈耳鼻咽喉科研究会

謹啓 時下、先生方におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
さて、この度第2回目を下記概要で開催させていただくこととなりました。
諸事、ご多忙とは存じますがご臨席賜りますよう宜しくお願い申し上げます。謹白

日時 令和6年7月20日（土） 16:50-18:45

場所 スイスホテル南海大阪 7階『芙蓉』

〒542-0076 大阪府中央区難波5-1-60 TEL 06(6646)1111



昨年から企画実現された『南阪奈耳鼻咽喉科研究会』の第2回が、奈良医大、近畿大学、近大奈良、岸和田市民の合同で、スイスホテル南海大阪にて現地開催されました。

一般講演の共通トピックスは『患者背景を考えた治療選択』とし、特別講演は兵庫医科大学の都筑建三教授にお越しいただき『上気道疾患と慢性咳嗽』についてご講演いただきました。



2024年7月27日

第40回 奈良県頭頸部腫瘍研究会

日時：令和6年7月27日（土）16時30分～19時15分

会場：グランドメルキュール奈良橿原 3F「大原」奈良県橿原市久米町652番地の2 TEL:0744-28-6636

共催：奈良県頭頸部腫瘍研究会/MSD株式会社

☆専門医単位、耳鼻咽喉科領域講習（1時間1単位）の日本耳鼻咽喉科学会の認定を受けております。日耳鼻学術集会参加報告書の受付はございません。

☆日本医師会生涯教育講座（奈良県医師会発行）の認定を受けております。

【開会挨拶】(16:30～16:35)

奈良県立医科大学 口腔外科学講座 桐田 忠昭 先生

…………… 休憩（5分） ……………

【一般講演】(17:40～18:10)

『再発・転移口腔癌に対する免疫チェックポイント阻害薬療法』

【講演】(16:35～16:55)

座長 近畿大学奈良病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科 太田 一郎 先生

演者 奈良県立医科大学 口腔外科学講座 山川 延宏 先生

『令和5年 奈良県頭頸部癌患者受診実態』—各施設頭頸部癌登録状況より—

演者 奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座 木村 隆浩 先生

《領域講習》

【一般演題 各20分】(16:55～17:35)

座長 奈良県立医科大学 口腔外科学講座 柳生 貴裕 先生

【特別講演】(18:10～19:10)

座長 奈良県立医科大学 口腔外科学講座 山川 延宏 先生

1. 「当科で行う下顎再建とその術後評価」

演者 奈良県立医科大学 口腔外科学講座 上田 順宏 先生

『口腔癌—最近の知見—』

演者 東京医科歯科大学 顎口腔腫瘍外科学分野 教授 原田 浩之 先生

2. 「再発・転移頭頸部扁平上皮癌における終末期薬物治療の考え方」

演者 奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座 西村 在 先生

【閉会挨拶】(19:10～19:15)

奈良県立医科大学 放射線腫瘍医学講座 磯橋 文明 先生



本日令和6年7月27日土曜、グランドメルキュール奈良橿原において、第40回奈良県頭頸部腫瘍研究会が開催されました。

耳鼻咽喉・頭頸部外科からは木村助教が恒例の「令和5年奈良県頭頸部癌患者受診実態」、西村診療助教が腫瘍内科的な「再発転移頭頸部扁平上皮癌における終末期薬物治療の考え方」の計2演題を発表しました。本研究会も今回でちょうど40回を数え、最新知見を交え議論も活発なものとなりました。引き続き、頭頸部癌治療の開発と最新治療への取り組みを進めて参ります。



2024年7月28日

鼻の日特集

『鼻の日によせて』



奈良県耳鼻咽喉科医会会長
玉木耳鼻咽喉科
院長 玉木 克彦
(たまき かつひこ)

病院によっては診療科を「耳鼻咽喉科」から「耳鼻咽喉科・頭頸部外科」に名称変更しているのを御存じでしょうか。クビから上は脳、眼、歯を除く多くの病気が耳鼻咽喉科が得意とする領域です。手術を行なう施設では頭頸部外科を診療科名称に追加しています。毎年7月は頭頸部外科月間としてガン等の腫瘍を早期発見するためのキャンペーンを行っています。また8月7日は「ハナの日」です。これにあわせて今年8月1日に耳鼻咽喉科の講演会を奈良県医師会館（橿原市）で開催します。講演会には鼻だけでなく、耳鼻

咽科領域の腫瘍の話題も提供する予定です。さて鼻に関する話題です。最も多い疾患がアレルギー性鼻炎です。抗アレルギー薬の内服、点鼻が一般的な治療法です。1日1回の内服で眠気の少ない薬もあります。他にはアレルギーの原因（抗原）に慣れていく（減感作）治療として舌下免疫療法があります。舌の裏にエキスを毎日1個入れておくだけです。今ところスギとタニだけです。昨年はスギ花粉が非常に多くて舌下免疫を希望する方が急増し薬品不足になりました。ご希望の方は最寄りの耳鼻科

で再開されているかご確認ください。薬で治らない場合は手術治療膜表面をレーザーで焼く治療から鼻の奥にあるアレルギーに関連する神経を切断する手術まで幾つかの方法があります。鼻にポリプがあっても気管支喘息を合併している場合は好酸球性副鼻腔炎という難病の可能性があり、診断には検査が必要となります。鼻・耳・ノドの病気が気になれば、まずは耳鼻咽喉科の診療所を受診していただき必要があれば病院を紹介するという流れになります。



公開講座
鼻に関する講演会と無料相談

日時 令和6年8月1日(木)
午後2時30分～午後4時30分

場所 「奈良県医師会館」3階講堂
橿原市内膳町5-5-8
TEL:(0744)22-8502

講演 「もっと知ってほしい
“口腔がん・頭頸部がん”」
奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学
病院教授 上村 裕和 先生

無料相談 耳鼻咽喉科
全般に関する相談に応じます
担当医師 耳鼻咽喉科専門医 *事前予約は不要です。

■ 問い合わせ先 **奈良県医師会耳鼻咽喉科部会事務局**
TEL:0744-22-8502

以前から耳鼻咽喉科の市民講座企画として、毎年3月3日は補聴器などの耳の話、8月7日は花粉症などの鼻の話に関するイベントが、各地で開催されてきました。最近では耳鼻科の正式名称である「耳鼻咽喉科・頭頸部外科」にちなんで、3月を「耳鼻咽喉科月間」、7月を「頭頸部外科月間」として、それぞれの領域のことを市民により深く理解してもらうためのイベントが開催されるようになりました。

奈良県でも今年3月には耳鼻咽喉科の北原から、耳鼻咽喉科月間企画「難聴・ふらつき対策で認知症を予防しよう」を講演させていただきました。そして今週木曜には頭頸部外科の上村裕和から、「もっと知ってほしい“口腔がん・頭頸部がん”」を解説いただきます。

講演後は耳や鼻の病気に限らず、耳鼻科すべての病気に関して、県民の無料相談会を予定しております。お時間お有りの方は是非、お誘い合わせの上、お運びください。



2024年8月1日



奈良県総合医療センターの阪上 剛先生から、めでたく鼻科手術指導医として認定されたとの報告がありました。県総は既に認可研修施設として承認されており、指導医は成尾一彦部長について2人目ということになります。

日本鼻科学会ホームページにもありますように、この制度設立の原動力となった理念は、耳鼻咽喉・頭頸部外科に関する熟練した技能と高度な専門知識とともに、鼻科領域の共通基盤となる基本的知識と技術、医療倫理を併せ持ち、鼻科疾患の手術に関する専門的かつ高度で安全な治療を実践する能力を有する耳鼻咽喉科医の育成です。

今後より一層、鼻科手術の件数増加とそれに伴い抗体製剤を使用しなければならない難治症例の件数増加が期待され、奈良医大とともに奈良県における鼻科診療の最先端を担うこととなります。

奈良医大関連施設から多くの鼻科手術指導医および認可研修施設が承認され、鼻科手術が栄えることを期待します。



2024年8月3日

第87回 耳鼻咽喉科臨床学会 総会・学術講演会
～いのち輝く未来耳鼻咽喉科のデザイン～
Designing Future ENT for Our Lives

✂ 会 長 **北原 紘**
(奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 教授)

✂ 副会長 **上村 裕和**
(奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 病院教授)

✂ 会 期 **2025年6月26日(木)・27日(金)**

✂ 会 場 **奈良県コンベンションセンター**

✂ 演題募集期間
2024年11月21日(木)
～ 2025年1月15日(水)

耳鼻咽喉・頭頸部外科の北原です。来年2025年6月26日木曜、27日金曜に、平城宮跡からほど近い奈良県コンベンションセンターにて、第87回耳鼻咽喉科臨床学会を主催いたします。

本日はその学会ホームページが正式に開設されましたので、お知らせさせていただきました。<https://gakkai.co.jp/porl87/>

耳鼻咽喉・頭頸部外科が、本来持つ感覚医学および頭頸部外科学という、人々の日常の些細な幸せを支えている素晴らしい分野であることに今一度立ち返り、耳鼻咽喉科業界が元気になる、社会が元気になるような内容を目指し、学会テーマを『いのち輝く未来耳鼻咽喉科のデザイン』としました。

学会の詳細につきましては、随時アップデートしつつアナウンスして参ります。ご確認のほど、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



2024年8月9日

奈良県耳鼻咽喉科漢方セミナー

日時 2024年 8月31日 (土) 17:00~18:30

形式 WEB + 会場 (奈良県コンベンションセンター：裏面参照)

【製品情報提供】 17:00-17:10 利水剤の特徴「ツムラ」

開会の辞：奈良県耳鼻咽喉科医会 会長 玉木 克彦 先生

【一般講演】 17:10-17:30
 座長：奈良県耳鼻咽喉科医会 会長 玉木 克彦 先生
 演者：奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 講師 岡安 唯 先生
 「耳鳴患者へ漢方薬のエビデンスと今後の臨床研究について」



「めまいに役立つ漢方処方
-漢方非専門医向けの-」

開会の辞：奈良県立医科大学 耳鼻咽喉

*耳鼻咽喉科領域講習
 ◎専門医単位、耳鼻咽喉科領域講習(1単位)の日本耳鼻咽喉科
 学会認定(認定)、日本耳鼻咽喉科学会 会員番号を記入
 ◎特別講演(領域講演)の送付履歴はお控えください。
 ◎日本医師会生涯教育講座の認定(奈良県医師会発行)を

【お問い合わせ】 株式会社ツムラ奈良営業部 TEL: 0742-33-0058 FAX: 0742-35-0047
 ※電話受付時間：平日9:00~17:45 (弊社休業日は除く)
 ※当日連絡先：070-3317-4841 (ツムラ水野)

共催：奈良県耳鼻咽喉科医会・日耳鼻奈良県地方部会・奈良県医師会耳鼻咽喉科部会・株式会社ツムラ

特定非営利活動法人 日本頭頸部外科学会
 Japan Society for Head and Neck Surgery

会員のみなさん 医学生・研修医のみなさん 一般のみなさん

お知らせ

【応募受付中】 ICI均てん化に向け九頭頸部がん薬物療法教育セミナー開催のお知らせ

当学会ではこの際、西村教授ががん薬物療法の教育に貢献することを希望いたします。

日 時：2024年8月31日(土) 14時~17時

場 所：奈良大学山上会館 本館大会議室 ※Web会議も
 〒112-8624 東京都中央区千代田7-3-1 (東京大学
 アクセス) <https://www.u-tokyo.ac.jp/ai/1000079/ai00096>

内 容：ICI均てん化に向け九頭頸部がん薬物療法教育セミナー

組織委員：清田博幸 先生 (神戸大学 腫瘍・血液内科)
 小川弘樹 (徳島がん専門医副委員長)

(1) エビデンス更新(仮)：腫瘍内科(がん薬物療法専門医)
 本講義員 先生 (国立研究開発法人国立がん研究セン
 ター) 徳島アンブレラ結核：徳島がん専門医副委員長
 小川弘樹 (徳島がん専門医副委員長)

(2) エビデンス外出の更新(仮)：腫瘍内科(がん薬物療法専門医)
 1) 西村 在 先生 (奈良県立医科大学附属病院耳鼻咽喉・頭頸部外科)

2) 最新動向-上咽頭-喉頭癌などのICI：腫瘍内科(がん薬物療法専門医)
 徳田博幸 先生 (国立研究開発法人国立がん研究センター) 徳島がん

3) ICIががん治療の対応と今後の展望：腫瘍内科(がん薬物療法専門医)
 今村真実 先生 (筑波大学 がん診療連携センター/血液・腫瘍内科)

4) セカンドライン以降の薬物治療とCCP特異(仮)：腫瘍内科(がん薬物療法専門医)
 小山真司 先生 (神戸大学 腫瘍・血液内科)

(4) 最新動向-徳島がん専門医の最新治療について(仮)

開催会場：
 当事務局メールアドレス ms-service@nmsbridge.co.jp まで下記内容でお申し込みください。

耳鼻咽喉科の標準的な知識と技術を習得し、試験に合格して専門医になることは、耳鼻咽喉科医としての第一関門です。さらに耳鼻咽喉科医としての可能性は、そこから無限に広がります。

当科・岡安 唯講師は耳鼻咽喉科専門医でありながら「日本東洋医学認定漢方専門医」を取得。当科・西村 在診療助教は耳鼻咽喉科専門医でありながら「がん薬物療法専門医」を取得。いずれも耳鼻咽喉科医としては数少ない、希少価値の高いお二人です。

たまたま同日、8月31日土曜に、岡安先生は「耳鳴の漢方治療」、西村先生は「高齢者の頭頸部がん薬物治療」について講演します。是非ご聴講ください。



2024年8月22日



今回は奈良総合医療センターの先生方や研修医の先生、ドイツから研修に来てくれている医学生含め、多くの先生方に参加いただきました。

側頭骨チームと鼻内視鏡チームに別れて実習を行いました。側頭骨は西村病院教授の、内視鏡は山下講師の直接指導を受けながら、普段は見ることがない深部や細部の解剖に触れることができ、貴重な実習となりました。

研修医の先生方も手術機器や解剖について実際に手を動かして、体験することで益々手術に興味を持って頂けたものと思います。

実施に際しまして、第一解剖学、第二解剖学、脳神経外科学教室の先生方には大変お世話になり、この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

2024年8月24日



2024年8月吉日

奈良県 難聴対策に関する診療連携の勉強会

奈良県におけるより効果的な難聴支援のネットワーク形成を目的に勉強会を開催いたします。
地域における難聴治療のパスウェイ、補聴器/人工内耳についてなど、幅広い情報交換の場として
ご利用いただけますと幸いです。

記

- ◆開催日時：2024年8月24日（土） 18:00～19:30
- ◆開催場所：橿原オークホテル「大和の間」
<http://www.kashihara-oakhotel.com/>
〒634-0063 奈良県橿原市久米町神宮前905-2
橿原神宮前駅より徒歩2分
- ◆対 象：耳鼻咽喉科医師、認定補聴器技能者
- ◆プログラム：
 - ・講演「難聴対策（仮称）奈良モデルについて」
奈良県立医科大学 ままい難聴センター 病院教授/ 奈良県補聴器キーパーソン
西村 忠己 先生
 - ・情報交換会



2024年8月24日（土）、耳鼻咽喉科医師・認定補聴器技能者を対象とした、「奈良県難聴対策に関する診療連携の勉強会」が橿原オークホテルで行われました。

奈良県における、より効果的な難聴支援のネットワーク形成を目的にした勉強会で、奈良県の主要病院、補聴器を扱うクリニックの耳鼻咽喉科医師、多数の認定補聴器技能者の方がご参加下さいました。

西村病院教授が、奈良県における難聴治療のパスウェイ（仮称:奈良モデル）について解説し、病院と補聴器店との新しい連携方法について確認しました。

その後、参加者で補聴器/人工内耳についてなど、幅広い情報交換が行われました。



2024年8月31日



先日、アナウンスさせていただいた奈良県耳鼻咽喉科漢方セミナーを、本日、台風10号の影響もあって完全WEB形式により開催させていただきました。

一般講演は当科・日本東洋医学会認定漢方専門医・指導医の岡安 唯講師に「耳鳴患者への漢方薬のエビデンスと今後の臨床研究について」、特別講演は横浜市立みなと赤十字病院・めまい平衡神経科の新井基洋部長に「めまいに役立つ漢方処方―漢方非専門医向けの薬剤選択のコツ―」をご講演いただきました。

漢方伝来の地である奈良県において、今後も基礎と臨床の両面から漢方治療のエビデンスを深めていくことができれば幸いです。



2024年9月1日

BMC Part of Springer Nature

BMC Palliative Care

Home About Articles Submission Guidelines Join The Board Collections [Submit manuscript](#)

Research | [Open access](#) | Published: 24 August 2024

Real-world data of anamorelin in advanced gastrointestinal cancer patients with cancer cachexia

[Ari Nishimura](#), [Satoshi Hamauchi](#), [Akikumi Nishio](#), [Kunihiko Fushiki](#), [Kotoe Oshima](#), [Takahiro Tsuchihara](#), [Takashi Kawakami](#), [Akiko Tsubota](#), [Tomoya Yokota](#), [Hirofumi Yasui](#), [Yusuke Onozawa](#) & [Kenshiro Yamazaki](#)

BMC Palliative Care **23**, Article number: 214 (2024) | [Cite this article](#)

70 Accesses | [Metrics](#)

Abstract

Background

Cancer cachexia is characterized by the loss of body weight (BW) and anorexia. Anamorelin (ANAM) is a selective ghrelin receptor agonist with appetite-enhancing anabolic action. The ONO-7643-05 trial demonstrated that ANAM increased lean body mass and improved anorexia in a Japanese population. However, the clinical outcomes of patients on ANAM have not yet been reported.

Patients and methods

We investigated the clinical outcomes of patients with unresectable, advanced, or recurrent gastrointestinal cancer (colorectal, gastric, or pancreatic cancer) who were treated with ANAM between April 2017 and August 2022. Cachexia was defined as the presence of anorexia and a loss of $\geq 5\%$ of BW within 6 months. To evaluate the response to ANAM, the patients who had discontinued ANAM within 3 weeks were excluded. Response to ANAM was defined as maintenance of or increase in BW and improved appetite from baseline at every 3-week evaluation. We also collected data on the reasons for the discontinuation of ANAM and the correlation between clinical factors and ANAM response. Safety analysis of ANAM was performed for all patients who received ANAM.

Results

Seventy-four patients were included in this study (49 males and 25 females), with a median age of 67.1 years (range, 36–83). The primary tumors were colorectal cancer in 27 (36.5%), gastric cancer in 20 (27.0%), and pancreatic cancer in 27 (36.5%). The Eastern Cooperative Oncology Group performance status was 0 in 10 (13.5%), 1 in 44 (59.5%), and 2 in 20 (27.0%). The number of previous chemotherapy regimens was 0 in 20 (27.0%), 1 in 22 (29.7%), and 2 in 32 (43.2%). ANAM was discontinued within 3 weeks in 28 patients for the following reasons: low-grade (grade 1 or 2) adverse events in 15 patients, ileus in three, grade 3 fatigue in one, progressive disease in one, censored follow-up in six, and unknown reasons in three. The proportion of ANAM responders was 63.6% (95% confidence interval, 47.8–77.6%). Among baseline characteristics, age ≥ 73 attenuated the ANAM response ($p = 0.03$). ANAM responders showed better disease control with chemotherapy than non-responders (75.0% vs. 37.5%, $p = 0.02$).

Conclusions

ANAM may improve the outcomes of patients with gastrointestinal cancer cachexia in clinical practice.

[Download PDF](#)

[Sections](#) [Figures](#) [References](#)

[Abstract](#)
[Background](#)
[Methods](#)
[Results](#)
[Discussion](#)
[Conclusions](#)
[Data availability](#)
[Abbreviations](#)
[References](#)
[Acknowledgements](#)
[Funding](#)
[Author information](#)
[Ethics declarations](#)
[Additional information](#)
[Rights and permissions](#)
[About this article](#)



当科のがん薬物療法専門医、西村 在診療助教が、静岡がんセンターでの国内留学の際に実施した、消化器がんの悪液質に対するアナモレリンの有効性を、BMC palliative care誌にまとめました。

がん悪液質は進行がん状態において食欲不振、倦怠感が出現する病態であり、がん治療においてQOLを悪化させ、治療の大きな障壁になります。アナモレリンはがん悪液質を改善することが報告されていますが、実臨床における有効性や有害事象は十分には明らかになっていません。

頭頸部癌では未承認薬ですが、がん悪液質に対する治療は非常に大きな課題です。今後のさらなる治療開発が待たれます。



2024年9月6日



8月から9月にかけての約1ヶ月間、遠路はるばるヨーロッパ最大規模の大学病院、シャリテ・ベルリン医科大学から、医学生David Buhnemann君が当科に研修にられました。

無事、耳鼻咽喉科実習プログラムを終え、奈良を含めた日本文化も満喫され、帰途につかれました。将来またどこかでお会いできる日を楽しみに。

2024年9月6日



今週水曜から3日間、遠路はるばる獨協医科大学埼玉医療センターから、海邊昭子講師が当科めまい難聴センターの見学に来られました。非常に忙しい診療の中、田中康広教授のご理解もあり、当センターの外来問診診察、神経耳科学的検査、内耳造影MRIを経て、確定診断から前庭リハビリテーションまで、ほぼすべての流れをご覧いただくことができました。

近い将来、両大学間での臨床研究のコラボなど、企画したいと思います。来年の耳鼻臨床、再来年の耳科学会でも是非ご来奈良ください。



2024年9月6日





第37回日本口腔・咽頭科学会が、2024年9月5日(木)—6日(金)に和歌山城ホールで開催されました。当科からは、上村病院教授が閉塞性睡眠時無呼吸に対する新規治療である舌下神経電気刺激療法の術後効果について発表いたしました。奈良医大は関西で唯一、症例が登録実施されている施設です。

□舌下神経電気刺激療法の適応基準は以下になります

- * 18歳以上
- * OSAが中等度から重度（AHIが20以上で、中枢性無呼吸が25%未満）
- * CPAP治療継続困難
- * 高度の肥満ではない。BMIが30未満
- * 扁桃肥大等の解剖学的異常がない
- * 薬物睡眠下内視鏡検査で不適応と診断されていない(当科で実施)

上記を満たす患者様は、お問い合わせ下さい。

また学会を開催くださいました、和歌山県立医科大学耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座の関係者の皆様、大変お疲れ様でした。



2024年9月7日



第8回奈良-大阪耳鼻咽喉科研究会【ハイブリッド開催】
(旧称：奈良-大阪めまい研究会)

講師 貴方におかれましては、まずまずご健勝のこととお慶び申し上げます。
本日は特別にご参加いただき、厚くお礼申し上げます。
この度、早稲田様に御報告させて頂きまして誠にありがとうございます。
ご多忙中とは存じますが、ご出席お待ちしております。よろしくお願い申し上げます。 謹白

【日時】 令和 6年 9月 7日(土) 18:00~20:10
【会場】 シェラトン都ホテル大阪 3F 春日の間
大阪市天王寺区上本町6-1-55

【URL】 <https://zoom.us/j/91476607052>
ID: 914 7660 7052

講演 18:00~18:10
キノロン系抗菌薬 ラスピック錠75mgについて 杏林製薬

特別講演 1 18:10~19:10
議長：奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科 教授 北原 真 先生
「耳鼻咽喉科感染症治療と耐性菌対策の両立を目指して」
関西医科大学附属病院 呼吸器感染症・アレルギー科 教授 宮下 修行 先生

特別講演 2【総論】 19:10~20:10
議長：大阪回生病院 耳鼻咽喉科 頭頸部外科 めまいセンター 藤田 信哉 先生
「テクノロジーを活用しためまい診療」
目白大学耳科学研究所クリニック 院長 伏木 宏彰 先生

※ 特別講演 1 は感染症の対策となりますので、講演開始前の中入室・退室は原則認められません。
※ 日本感染症学会 呼吸器感染症治療の推進委員会 でお知らせ。
【お問い合わせ先】 1) 事務局 2) 医事支援課 (197)

2024年9月7日

第8回奈良-大阪耳鼻咽喉科研究会

耳鼻咽喉科感染症治療と耐性菌対策の両立を目指して

関西医科大学 内科学第一講座
呼吸器感染症・アレルギー科
宮下 修行

今年の第8回奈良-大阪耳鼻咽喉科研究会(旧：奈良-大阪めまい研究会)は、例年通り9月7日土曜にシェラトン都ホテル上本町でハイブリッド開催となりました。

今回は大阪回生病院・めまいセンターの藤田信哉センター長にご担当いただき、関西医科大学・呼吸器感染症アレルギー科の宮下修行教授に「耳鼻咽喉科感染症治療と耐性菌対策の両立を目指して」、目白大学・耳科学研究所クリニックの伏木宏彰院長に「テクノロジーを用いためまい診療」をご講演いただきました。



来年は奈良県立医科大学の担当で、明るく楽しい耳鼻咽喉科の未来を予感させるような企画を目指したいと思います。



2024年9月12日

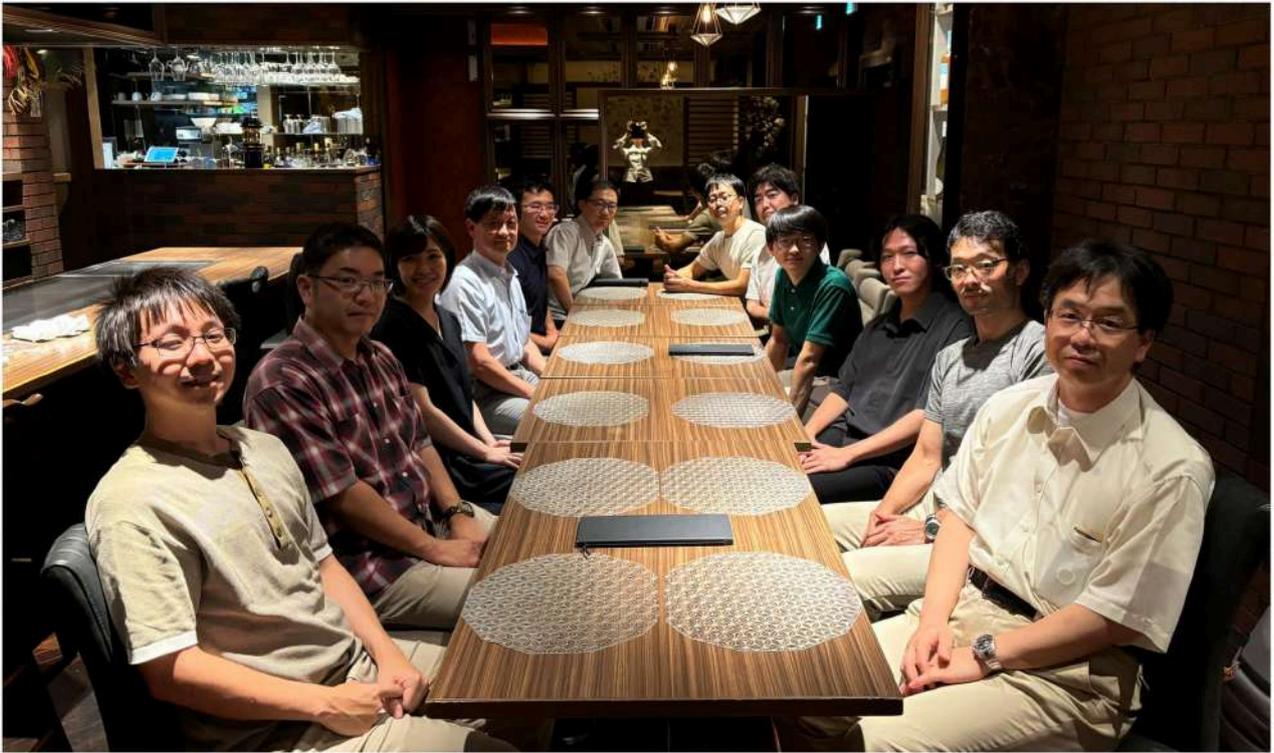




本日は豊中市千里保健センターと奈良医大めまい難聴センターとのコラボで、令和6年度 耳からはじめる『脳活教室』を開催しました。場所は千里中央駅パルやま奥、千里文化センターにて。1時間に25名をお迎えしての3部構成。トータル75名の豊中市民の方々にご利用いただきました。参加受付は当日即完売(無料)だった模様。健康意識の高い地域なのかも知れません。ユニバーサルサウンドデザインの中石真一路様のご尽力で、今回からヒアリングフレイルに加えベストイアリングフレイルの活動が始まりました。超高齢社会を迎える日本の耳鼻咽喉科として、非常に重要なイベントと考えます。今後さらに注力して参ります。



2024年9月13日



奈良県立医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科に吉報が届きました。研修医の内柴先生が来年度から医局の一員になる決断をしてくださいました。

本日はうれしさのあまり、内柴先生を囲む会を早速開催いたしました。



2024年9月25日



めまい診療のコツは、めまい症状をよく聞き取り、めまいが起こったときの状況証拠を積み上げ、疑わしい病気をリストアップ、決め手となる検査、そして診断にこぎ着けることです。

高校生、医大生に対して、奈良医大の大学祭「かしふ祭」で「めまいと平衡感覚のお話」＋「のどと声を出すメカニズムのお話」を講義します。ご父兄、お友達、お誘い合わせの上、お気軽にご来場ください。

<https://www.kashifusai2024.com/>

<https://www.facebook.com/share/v/18uM2deG4W/>

日時：2024年10月27日 日曜 13:00-16:00（講義途中での出入り自由！）

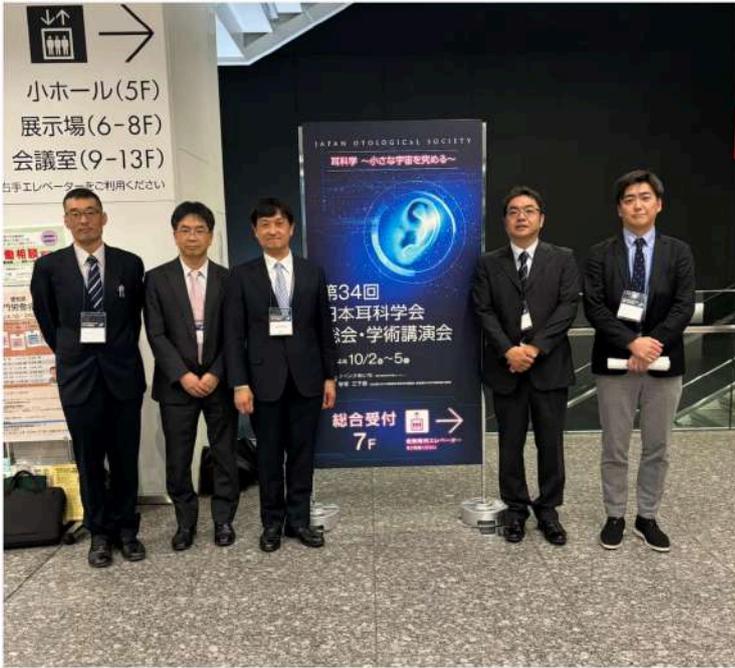
場所：奈良県立医科大学◆臨床講堂

1. 南奈良総合医療センター◆初期研修医◆中島梨沙Dr「医師2年目の現在地 りされもん流キャリアデザイン」：医師を目指すあなたの道標、羅針盤になるでしょう。
2. あべのハルカス坂本耳鼻咽喉科◆ボイスセンター◆望月隆一Dr「たかが声。されど声。一実は”のど”って、すごいらしい！」：歌姫が登場するかも知れません。ご期待ください。
3. 奈良医大耳鼻咽喉科◆めまいセンター◆北原「めまいの原因を探ってみよう★君も名探偵コナン★」：りされもん先生とコラボの聴衆参加型講義。実際にめまい検査を受けてみてください。

その他、「かしふ祭」の2日間、スキルスラボにて、眼振計や重心動揺計に触れていただき、自分の平衡感覚をチェックしてもらえます。



2024年10月5日



第34回日本耳科学会総会・学術講演会が10月2日から本日までの3日間、ウィンクあいちにて開催されました。

当科、そして関連病院から多数参加させていただき、講演・症例報告等を行いました。学会の事務局名古屋大学の関係の皆様には厚く御礼申し上げます。

また、再来年の耳科学会学術講演会は奈良医大が担当させていただくことになっております。

皆様に奈良でお会いできる日を楽しみにしております。



2024年10月12日



一般講演Ⅲ (第1会場) 中川 尚志 (九州大学)

O10. 高齢者の耳鳴に対し漢方薬が有効であった一
名古屋市中区立病院 耳鼻咽喉科
名古屋市中区立大学 漢方医学センター
○勝見 さち代¹⁾、有馬 菜千枝

O11. 腎は耳に開竅する～耳科領域における八味地
なほな耳鼻咽喉科
○境 修平

O12. 市中病院での慢性耳鳴患者への漢方薬と
アデノシン三リン酸二ナトリウム投与の比較検討
奈良県立医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科¹⁾、市立奈良病院 耳鼻いんこう科²⁾
○北野 公一¹⁾²⁾、山下 哲範¹⁾、岡安 雅¹⁾、執行 雅之²⁾
岡本 英之²⁾、北原 礼¹⁾

O13. 低音障害型感音難聴に対する漢方治療の有用性
たなか耳鼻咽喉科医院
○田中 正浩

ハンズオンセミナー:舌診 (第2会場)
《教育講演連携企画》事前申込制 (1グループ・約20分) 13:30~14:30

北里大学医学部 総合診療学 助教 (診療講師)
五野 由佳理
細野 浩史

休憩 13:55~14:00

一般講演Ⅳ (第1会場) 犬飼 賢也 (札幌医科大学) 14:00~14:30

O14. 苓桂朮甘湯が無効であっためまい症例に関する考察
Mクリニック耳鼻咽喉科
○渡辺 英彦

O15. めまい症と熱の関係性の検討
金沢大学附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科
金沢大学大学院医学系研究科 耳鼻咽喉科
○白井 明子¹⁾、吉崎 智一²⁾

O16. 発作性めまいに対する漢方合方療法
東海大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科¹⁾、和歌山県立医科大学 漢方医学科²⁾、東海大学 漢方医学科³⁾
○五島 史行¹⁾、齋藤 晶²⁾³⁾、野上 浩一²⁾

休憩

優秀演題賞 ノミネート講演 (第1会場) 山下 拓 (北里大学) 北村 嘉章 (徳島大学) 14:40~15:40

N1. マウス耳石器形態の加齢性変化に対して、漢方薬長期内服が与える影響の比較検討
奈良県立医科大学附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科¹⁾、ベルランド総合病院 めまいセンター²⁾
○植田 景太¹⁾、岡安 雅¹⁾、今井 貴夫²⁾、北原 礼¹⁾

N2. 片頭痛の頭痛軽減としての川芎茶調散の処方検討
横浜市立みなと赤十字病院 めまい平衡神経科
○新井 基洋

N3. 耳痛に対する漢方治療の検討
福井大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科
○呉 明美

N4. 黄連によるSARS-CoV-2 envelope protein刺激によるCalu-3 細胞のIL-6産生抑制機序解明
大阪道科大学歯科医学教育開発室¹⁾、松本歯科大学薬理学講座²⁾
○王 宝禮¹⁾、益野 一哉¹⁾、大草 巨孝¹⁾、今村 泰弘²⁾

N5. CPAP療法中の鼻症状に対する漢方治療効果について
名古屋市中区立大学大学院医学研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科¹⁾、名古屋市中区立大学病院 漢方医学センター²⁾
○有馬 菜千枝¹⁾²⁾、江崎 伸一¹⁾、勝見 さち代¹⁾、小島 綾乃¹⁾、佐藤 慎太郎¹⁾

第39回日本耳鼻咽喉科漢方研究会が、本日2024年10月12日(土)に、東京コンファレンスセンター品川で開催されました。大会長は北里大学 耳鼻咽喉科 山下 拓先生、テーマは「漢方の可視化」。

特別講演は東京慈恵会医科大学 疼痛制御研究講座 上園保仁先生および八戸市立市民病院 漢方内科部長 川村 強先生。当科からは、北野公一医員が牛車腎気丸を用いた耳鳴の臨床研究、植田景太大学院生が六君子湯を用いた耳石の基礎研究を発表しました。いずれも、今後のデータ蓄積から得られる結果が楽しみです。



令和6年度奈良県耳鼻咽喉科医会総会および第98回奈良県耳鼻咽喉科講習会がホテル日航奈良にて開催されました。

特別講演では、慶應義塾大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科教授の小澤宏之先生と川崎医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科臨床講師の兵行義先生にご講演いただきました。小澤教授には、頭頸部癌における遺伝情報の活用という最先端の内容を、兵先生には、小児鼻・副鼻腔炎治療の重要性につき、非常にわかりやすくご講演いただきました。



2024年10月24日



10/26 (土) ▲ **10/27 (日) ▲**

**NMU mini
講演**
～奈良県の医療にせまる～

at 教養教育棟
第2講義室

<p>縁に交えられた 研究生活</p> <p>生化学講座 助教 牧野 舞先生</p>	第1期 11:00 - 11:45	<p>人はなぜ老いるのか？ ～線を穿る「オートファジー」 の仕組み～ 生化学講座 教授 中村 修平先生</p>
<p>私の仕事は起死回生です ～ある心臓血管外科医の 半生～</p> <p>胸部・心臓血管外科講座 教授 経野 光治先生</p>	第2期 12:00 - 12:45	<p>医師2年目の現在地 ：とらわれを問い直す</p> <p>初期研修医 りされもん先生</p>
<p>生命の設計図を書き換える ～ゲノム編集と再生医学 で広がる未来の医療～</p> <p>生体学第2講座 教授 堀江 恭二先生</p>	第3期 14:00 - 14:45	<p>たかが声。されど声。 ～実は"のど"って、 すばらしい！～ あべのハルカス坂本耳鼻喉科 大阪ポイスセンター 教授 望月 隆一先生</p>
<p>国家試験 不合格が原点？ "石壁"医師が「執行医」を 目指して選り合った リハビリテーション科 専攻医 松井 元雅先生</p>	第4期 15:00 - 15:45	<p>めまいの原因を 探ってみよう ☆君も名探偵コナン☆</p> <p>耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座 教授 北原 龍先生</p>

公益大学法人
奈良県立医科大学

本日、奈良医大関連施設である大阪回生病院において、望月隆一先生のMicroscopic Laryngeal Surgeryが、記念すべき2500件に達しました。音声一筋30年以上注力され、一例一例丁寧に積み重ねてこられた症例には、多くの感動的な耳鼻咽喉科ストーリーが秘められています。そんな望月隆一先生のmini講演が、今年の奈良医大『かしふ祭』で聴講できます。10月27日日曜14時から、教養教育棟第2講義室にて。お題目は『たかが声。されど声。一実は"のど"って、すばらしい！』。望月先生と懇意にされている歌姫が登場します。乞うご期待。ちなみに、同日同講義室で13時から南奈良総合医療センター・初期研修医、りされもん先生の『医師2年目の現在地：とらわれを問い直す』。15時から奈良医大・耳鼻咽喉科、北原の『めまいの原因を探ってみよう☆君も名探偵コナン☆』もお見逃しなく。奈良医大『かしふ祭』は一般開放されていますので、医大を目指す高校生は是非、ご両親と見学にお越しください。



2024年10月25日





帝京平成大学 池袋キャンパスで、2024年10月23日（水）～25日（金）の日程で、第69回日本聴覚医学会総会・学術講演会が行なわれています。

当科からは、西村病院教授、岡安講師、森本助教、大塚診療助教、関連施設から下倉准教授が参加しています。今回は初期研修医の先生も参加してくれています。当科からはすべて軟骨伝導補聴器に関する演題で、西村は補聴器の耐久性について、大塚は公的支援について、岡安は耳介の状態と装用効果について、森本は補聴研究会でフィッティングの実際の流れを解説しました。下倉は残響除去フィルタについて報告しました。

他施設からも軟骨伝導補聴器の演題を多数発表していただいております、装用者の増加に伴い公的支援が充実されていくことを願っています。

本学会を開催くださいました、会長の伊藤健先生はじめ、帝京大学耳鼻咽喉科学講座の皆様にご礼申し上げます。



2024年10月25日



いよいよ奈良医大・大学祭である『かしふ祭』が、10月26日土曜、27日日曜の2日間にわたり開催されます。毎年医学展示が行われますが、今年は耳鼻咽喉科から『重心動揺検査』と『赤外線眼振検査』が出展されます。自分の平衡感覚を確認しつつ、良い結果が出ればお土産を持って帰っていただくことになっています。場所は動画のごとく、医大病院南玄関から出て180°振り返ったところにある教育研修棟の2階です。よろしくお願いします👉



2024年11月10日



本日、当科大学院生の景山魁先生と言語聴覚士の優里さんが結婚式を挙げられました。末長くお幸せに。



2024年11月16日





2024年11月13日～15日の3日間で名古屋コンベンションホールにて第83回日本めまい平衡医学会総会・学術講演会が開催されました。

当科及び関連病院からは相談医ブラッシュアップセミナーで北原紘教授、シンポジウム1でベルランド総合病院めまい難聴センターの今井貴夫センター長、シンポジウム2で阪上雅治助教、シンポジウム3で和田佳郎特任講師の講演があり、一般演題発表では6演題と多くの演題を発表しました。当科の特徴の一つであるめまい診療について様々な内容の新たな知見を公表しました。患者さんの治療を行う上で最新の知見を得つつ、より良い医療を提供できるよう教室として精進していこうと思います。

今回は研修医の先生や4週ポリクリの学生さんも参加いただき、フレッシュな気分で充実した学会となりました。学会をご開催くださいました名古屋市立大学耳鼻咽喉・頭頸部外科の岩崎真一教授はじめ、スタッフの皆様に感謝申し上げます。



2024年11月17日

frontiers | Frontiers in Neurosciences

ORIGINAL RESEARCH

Effects of aging on otolith morphology and functions in mice

Kenta Ueda^{1,2*}, Takao Inai¹, Kenko Ito¹, Tadayuki Okamoto¹, Shintaro Harada¹, Taketsumi Kametani¹, Kazuya Ono¹, Tatsuya Katsumoto¹, Tatsuhiko Tanaka¹, Kouko Tatsumi¹, Hiroshi Hibino¹, Akiyo Watanaka¹ and Tadashi Kitahara¹

Background: Increased risk of falls caused by vestibular system impairment is a significant problem associated with aging. A vestibule is composed of linear acceleration-sensing cristae and rotation-sensing semicircular canals. Cristae, composed of utricle and saccule, detect linear accelerations. Cristae organs partially play a role in the sense of aging. Aging possibly changes the morphology and functions of cristae. However, the specific associations between aging and cristae changes remain unknown. Therefore, this study aimed to clarify these associations in mice.

Methods: Young C57BL/6J (8 weeks old) and old (20–23 weeks old) mice were used in a motion-compensated tomography (MCT) experiment for morphological analysis and a linear acceleration experiment for functional analysis. Young C57BL/6J (8 weeks old) and middle-aged (10 weeks old) mice were used in electron-microscopy experiments for morphological analysis.

Results: MCT revealed no significant differences in the otolith volume ($p = 0.12$) but significant differences in the otolith density ($p < 0.0001$) between young and old mice. μ CT and electron microscopy revealed significant differences in the structure of cristae at the center of the otolith (μ CT, $p < 0.0001$; electron microscopy, $p < 0.001$). Significant differences were also observed in the amplitude of the eye movement during the vestibulo-ocular reflex induced by linear acceleration (movement amplitude of approximately 1.5° ($p < 0.0001$); maximum amplitude of saturation = 0.75° ($p = 0.0001$), indicating that the otolith function was more impaired in old mice than in young mice.

Conclusion: This study demonstrated the decline in otolith function with age caused by age-related morphological changes. Specifically, when cristae density decreased, otolith function declined. In addition, the structure of cristae at the center of the otolith decreased, thereby causing a decline in the overall otolith function.

ORIGINAL RESEARCH

Prognosis of asymptomatic endolymphatic hydrops in healthy volunteers: A five-year cohort study

Takahiro Kimura MD, PhD^{1,2}, Tadashi Kitahara MD, PhD^{1,2}, Tadayuki Okamoto MD, PhD^{1,2}, Masaharu Sakagami MD, PhD^{1,2}, Tomoyuki Shiozaki PhD^{1,2}, Hiroshi Inai MD, PhD^{1,2}, and Yoshiko Kozumi MD, PhD^{2,3}

Background: This study aimed to clarify the prognosis of asymptomatic endolymphatic hydrops (EH) in healthy volunteers via five-year follow-up with inner ear magnetic resonance imaging (MRI).

Methods: Inner ear MRI was performed on 113 participants recruited in centers in a previous study on Meniere's disease. The endolymphatic space was visualized using Nagayama's method of contrast-enhanced MRI with intravenous gadolinium injection and evaluated using Nakajima's method of 3D imaging analysis.

Results: Cochlear or vestibular EH was present in 7.9% of participants ($n = 9$), with 38 cases being unilateral (bilateral), unilateral (bilateral), and asymptomatic (bilateral). Only unilateral localized EH, only vestibular localized EH, and both EH were present in 1.7% ($n = 2$), 0% ($n = 0$), and 6.2% ($n = 7$), respectively. Of 105 participants, 100 (95%) were followed up for 5 years. Among 104 EH had absent disappeared in two participants in the C and V groups (4/16, 25.0%). EH was still present in three participants in the V group and one in the CV group (4/9, 44.4%). One participant in the V group and another in the CV group presented with residual inner ear EH and developed typical symptomatic Meniere's disease (2/23, 8.7%).

Conclusion: Approximately 7% of healthy participants showed asymptomatic EH. Therefore, EH is not the definitive marker for making a diagnosis of Meniere's disease or the suitable predictor for the development of Meniere's disease. Among these participants, 25% unilateral EH and subsequently developed typical Meniere's disease within the next 5 years. Suffering positive participants maintained permanent

ORIGINAL RESEARCH

Effect of performance status on the therapeutic effect of nivolumab in recurrent or metastatic squamous cell carcinoma of the head and neck

Ari Nishimura^{1,2*}, Chie Ishida¹, Akihito Tanaka¹, Takahiro Kimura¹, Yumi Yoshida¹, Hirokazu Uemura¹, Masayuki Takada¹, Tadashi Kitahara¹

Background: Systemic chemotherapy is the primary treatment strategy for recurrent or metastatic squamous cell carcinoma of the head and neck (RM-SCCHN). Therapeutic strategies are changing considerably with the introduction of molecular targeted and immune checkpoint inhibitor (ICI) therapies in addition to conventional cytotoxic therapy. The CheckMate-141 and KEYNOTE-049 trials have evaluated the use of ICI as first-line treatment to improve the overall prognosis of RM-SCCHN. However, background factors affecting treatment responses, including performance status (PS), remain poorly defined. Therefore, we investigated the effect of PS in patients treated with nivolumab.

Methods: We retrospectively reviewed the treatment outcomes and background of 11 patients with RM-SCCHN who received nivolumab monotherapy between April 2017 and March 2023.

Results: The patient background was nivolumab = 207, median age = 68 years (range: 39–85), PS0/1/2 = 14/5/2, and chemotherapy/hypopharyngotomy = 2/12/2/5. Median overall survival was 8.0 months (95% confidence interval [CI]: 4.3–10.6 months), median progression-free survival was 3.8 months (95% CI: 1.3–6.1 months), and objective response rate was 22.6% (95% CI: 1.1–40.0%). Interim overall adverse events of grade 3 or higher were observed in three patients (27.3%). Eight (72.6%) of the 11 patients (including four patients who maintained complete response for over 7 years) were successfully transferred to post-treatment. In the multivariate analysis, Eastern Cooperative Oncology Group (ECOG) PS (Hazard Ratio: 9.87, 95% CI: 1.39–64.56) was associated with poor survival.

Conclusion: The efficacy of nivolumab is reduced in patients with poor PS.

Keywords: Recurrent or metastatic squamous cell carcinoma of the head and neck; Nivolumab; Prognostic factor; Immune checkpoint inhibitor; Performance status

Introduction: Systemic chemotherapy is the primary treatment for recurrent or metastatic squamous cell carcinoma of the head and neck (RM-SCCHN). Although the prognosis of RM-SCCHN is poor, treatment strategies have changed dramatically with the recent advent of molecular-targeted agents and immune checkpoint inhibitors (ICIs). In particular, following the results of the CheckMate-141 and KEYNOTE-049 trials (1, 2), the use of ICI as an early-line regimen has become possible, and the overall prognosis of RM-SCCHN has improved. Although ICI has been shown to improve the prognosis of RM-SCCHN, the outcomes demonstrated in clinical trials are in patients in good clinical condition. Whether the general condition affects the response to ICI treatment in patients with a poor performance status (PS) remains unclear. Previous studies have reported that tumor size (3) and the immunophenotypic ratio (NLR) (4) are prognostic factors in patients receiving nivolumab therapy for RM-SCCHN. Predictive factors of the response to chemotherapy

大学院生の論文が先月相次いで受理/掲載されました。
植田景太先生の論文は「マウス耳石器の形態と機能の加齢による変化を観察したもの」で、耳石器疾患の治療を考える上で重要な基礎的論文になると考えます。
木村隆浩先生の論文は「健常人に検出された無症候性内リンパ水腫を5年間追いかけたもの」で、メニエール病の発症機序解明に近づく重要な論文になると考えます。
西村 在先生の論文は「頭頸部癌に対するNivolumabの治療成績を検討したもの」で、PS不良例が再発/転移に対して予後不良であることを示す臨床的に意義ある論文です。



2024年11月21日



予定プログラム

1. 特別講演: ~いのち輝く未来社会のデザイン~ Designing Future Society for Our Lives
吉村洋文(関西万博理事)
2. 招待講演
2-1. 頭蓋底外科手術: Professor Garret Choby (University of Pittsburgh Medical Center), 後藤剛夫(大阪公立大学・脳神経外科学)
2-2. 舌下神経刺激装置挿込術: Professor Thomas Heineman (Physicians' Clinic of Iowa), 奈良県立医科大学・種根グループ
3. シンポジウム: 未来耳鼻咽喉科のエンドタイプアプローチ
池田哲郎(埼玉医科大学), 坂下雅文(福井大学)
4. シンポジウム: 診断・治療と未来耳鼻咽喉科
AI 診断、新規医療(演者未定)
5. ミニシンポジウム: IVR と未来医療
大須賀慶悟(大阪医科大学・放射線診断学)
6. パネルディスカッション: 声職に寄り添う未来耳鼻咽喉科
有働由美子(キャスター)、他(演者未定)
7. パネルディスカッション: オスラー病(遺伝性毛細血管拡張症)
大須賀慶悟(大阪医科大学・放射線診断学)、他(演者未定)
8. パネルディスカッション(言いたい放題)
8-1. 診断が確定できないめまいの治療(演者未定)
8-2. 未来頭頸部がん治療展望(演者未定)
9. 教育講演
9-1. 口腔癌の診断と治療と予防と連携(演者未定)
9-2. 嚥下の診断と治療と予防と連携(演者未定)
10. モーニング手術セミナー
10-1. 耳科手術: 顕微鏡下技術の必要性と内視鏡下技術の発展性(演者未定)
10-2. 鼻副鼻腔手術: 自身の技量の現在地を見直し次のステップへ(演者未定)
10-3. 頭頸部外科手術: 耳下腺・甲状腺手術の良いとこ取りを目指す(演者未定)
11. 臨床研修医・学生セッション: これから耳鼻咽喉科を目指す方々による初めての学会口演
12. 耳鼻咽喉科・感動ストーリー: これから耳鼻咽喉科を目指す方々の心を揺さぶる症例報告(敬称略)

いよいよ本日正午から、第87回耳鼻咽喉科臨床学会の演題登録が開始されました。2025年6月26日木曜と27日金曜、平城宮跡にほど近い奈良県コンベンションセンターにて開催されます。

魅力的な企画をちりばめたプログラム構成となっております。吉村洋文関西万博理事による万博裏話(予定)。有働由美子キャスターによる音声パネル(予定)。頑張って発表してくれた学生・研修医には万博にちなんだ参加賞のご準備。ベテランの先生方からは耳鼻咽喉科医と患者との間に生まれた泣けるような感動ストーリーをお聞かせいただきます。

その他、ほうせき箱さんの絶品かき氷、総本家平宗の柿の葉寿司、奈良県地ビールなどもお楽しみいただきたく考えております。

昨年の塚原会長、今年の藤枝会長と引き継がれたmotto「楽しくなければ耳鼻臨じゃない!」を掲げつつ、いにしえ当時と変わらぬ色彩豊かな紫陽花が咲き乱れ、神の遣いである鹿たちが闊歩する、美しく神秘に満ちた初夏の奈良にて、多くの皆様方のご参加ならびにご発表をお待ち申し上げます。



2024年12月5日



大阪大学医学部統合薬理学と奈良県立医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学との共同研究の打ち合わせのため、日比野 浩教授に奈良医大までおいでいただき、議論を深めました。



2024年12月6日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。今週から新5回生の1週ポリクリが始まり、金曜午後は総括+めまいクルズをさせていただきました。半年振りのポリクリなので週の流れに慣れるまでバタバタしますが、どうぞよろしくお願いいたします。

今年度も「職に寄り添う耳鼻咽喉科」普及活動の一環として、「めまい」を取り上げる方針です。めまい救急トリアージのコツ、耳鼻咽喉科のきめ細やかなめまい診断学、めまいの手術治療という選択肢、という内容で魅力的に進めてまいります。

それでは良い週末をお過ごしください。



2024年12月7日



昨日、B病棟8階合同忘年会を行いました。

5年ぶりの開催となり、耳鼻咽喉科、血液内科、腫瘍内科の各先生方、さらに看護師さんだけでなくコメディカルもの方等たくさんの関係者にご参加をいただくことができました。

来年もよろしくお願いたします。



2024年12月13日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜午後は新5回生1週ポリクリ総括+めまいクルズをさせていただきました。総括は慢性中耳炎に対する病巣と鼓室形成術型式、耳硬化症の診断と治療、鼻中隔湾曲症の症状と手術のコツ、小児睡眠時無呼吸の診断と治療、声帯にできる病変について、しっかりまとめていただきました。めまいクルズも毎学年微修正を重ねまして、この学年で11回目の改定になりました。回を重ねるごとに素晴らしい仕上がりになっていると自画自賛しておりますが、ご興味のある先生は是非見学にご来奈良ください。ということで、本日は大阪大学の関連病院からお2人、伊賀先生と嶋田先生が奈良医大めまいセンターを見学に来てくれました。それでは良い週末をお迎えください。



2024年12月19日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。明日は東京出張がありますので、本日木曜午後に新5回生1週ポリクリ総括+めまいクルズスを、1名欠席の4名に対して実施させていただきました。

総括は滲出性中耳炎に対する検査診断治療、慢性中耳炎および真珠腫性中耳炎に対する病巣部位と鼓室形成術型式、鼻腔に存在する腫瘍について診断と治療、顎下部にできる腫瘍について診断と治療について、しっかりまとめていただきました。

めまいクルズスも問診、検査、処置、手術等、触れていただくことを重視して進めています。持ち運び便利な赤外線フ렌ツェルを体験してもらいました。

ここんところ寒い日が続きますが、元気な週末をお過ごしください。

2024年12月24日

研究支援員配置制度利用者の声(12)

今回は、研究支援員配置制度を2022年1月から利用され、未子のお子さまが小学校を卒業する2025年3月で終了予定の耳鼻咽喉・頭頸部外科学助教の森本千裕先生と北原礼教授から利用者の声を聞いていただきます。

耳鼻咽喉・頭頸部外科学教室は、東年には創設80周年を迎える伝統ある教室です。両門会医師数に占める女性の割合は20.3%、病院・診療所等の開設者に占める女性の割合も18.8%（令和3年度厚生労働省「女性活躍推進等の働き方支援事業」調査結果）と多くの女性医師を輩出してこられました。しかしながら、大学では2010年以降長らく女性教員が在籍しない状況が続いておりました。森本先生は北原礼教授のご指導の下で業績を伸ばして、2023年1月に助教に就任された13年ぶりの女性教員となりました。今後も耳鼻咽喉・頭頸部外科学教室で多くの女性医師が活躍し、森本先生に続く女性教員が誕生することをセンター一同期待しております。

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 助教 森本 千裕

私は大学院を卒業後、ライフワークである小児聴覚診療に従事するかわら、耳鼻咽喉科領域の遺伝診療も開始し、2018年に臨床遺伝専門医を取得しました。それ以降性別と研究の両立は難しく、これまで以上に責任のある役割を担う機会が増えました。一方で、家庭では下の子がお小生になり、学校行事や長期休暇のサポートなど新たな役割も増え、家庭と仕事の両立の重要性を改めて実感していました。そんな中、研究支援員配置制度を知り、3年間利用させていただきました。本制度により、子どもが小学校を卒業するまで継続して支援を受けることができ、私にとっては大きな支えとなりました。研究支援員の亀喜さんは、その豊富なスキルを駆使し、データ整理や資料作成、共同研究の調整など、研究活動を多方面からサポートしてくださいました。また、彼女自身も子育て経験があるため、働く母親の良き理解者として温かく支えてくださいました。この制度の存在は、大学で働く女性研究者にとって頼もしいものであり、今後も奈良県立医科大学が女性研究者がキャリアを継続しやすい環境整備を進めていけることを願っています。

最後に、本制度の利用にご理解とご協力いただいた耳鼻咽喉・頭頸部外科の北原礼教授および教室員の先生方、女性研究者・医師支援センターの須崎康生先生をはじめセンターの皆様へ、心より感謝申し上げます。

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 教授 北原 礼

耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座では、臨床の診療と研究は重要な柱の一つです。これまで森本千裕先生は2人のお子様を育てながら、小児聴覚診療とそのデータ解析による臨床研究に奮闘していました。そのような折、3年前から亀喜千香さんの協力のおかげで、研究成果を世界に向けて発信することが叶いました。ひとえに、須崎康生先生をはじめ、女性研究者・医師支援センターの皆様のご尽力のおかげと、心より感謝しております。今後も女性医師が第一線で活躍できるよう、可能な限り支援して参ります。引き続きご指導のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

【卒業後記】
本年度は4月から医師の働き方改革の刷新が施行されました。大学で勤務する医師は、臨床・教育・研究と多岐にわたる業務を定められた限定的な時間内で遂行することが求められています。そのような中で競争的資金獲得にも力を入れていますが、令和7年度は女性臨床医学専攻教員の業績評価が伸びず下がりました。本センターでは女性の研究力向上と職位上昇を促進して、今後も研究支援を続けていきたいと考えています。どうぞ来年もご指導ご鞭撻の程、よろしくお願ひ申し上げます。

【編者・発行】
奈良県立医科大学 女性研究者・医師支援センター「まほろば」
〒634-8521 奈良県橿原市西条町B40
奈良県立医科大学 看護学棟5階
TEL: 0744-92-9011(看護)
0744-92-9051(研) 内線: 2525
E-mail: jshien@naramed-u.ac.jp
センター長 須崎康生

第14回女性研究者学術研究奨励賞を募集中です
【令和7年1月31日(金)正午締め切り】

本学では、優れた研究成果を挙げた本学の女性研究者に対してその研究意欲を高め、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成及びこれによる男女共同参画の促進等に資することを目的に、女性研究者学術研究奨励賞を授与しています。

対象者は、医学部・看護学部の教員（教授を除く）、博士研究員、特別研究員、大学院生又は退職の女性研究者です。

第14回女性研究者学術研究奨励賞の募集に関するお知らせは、12月上旬に全教職員へ一斉メールでご案内しています。また、当センターHPでも募集に関するお知らせを掲載していますので参考にしてください。多くの女性研究者の積極的な応募をお待ちしています。

<https://jsei.naramed-u.ac.jp/activity/training/index.html> 当センターHP/女性研究者育成▶

令和7年度上半期研究支援員配置希望者を募集します

当センターでは、子育てや介護、不妊治療といったライフイベントにより研究時間が十分に確保できない女性研究者・医師（女性教員、診療助教、研究助教及び常勤非常勤助教）に対し、研究支援員を配置しています。令和6年度は、基礎医学系教員1名、臨床医学系教員5名、診療助教1名、病院助教1名の合計8名の女性研究者・医師が本制度を利用しています。平成23年度以降、これまでに基礎・教養教育部門5名、臨床医学部門19名、看護学5名の合計29名の女性研究者・医師が1名（1名）、不妊治療（1名）、妊娠・出産・育児（27名）を理由に本制度を利用し、各分野でキャリア向上を果たしています。

令和7年度上半期（令和7年4月～令和7年9月）の希望者募集については、1月中旬に学内一斉メール・学内専用HPなどからご案内予定です。制度の利用を新たに検討されている方は、女性研究者・医師支援センター 須崎康生副センター長（内線2525）までお問い合わせください。

<https://jsei.naramed-u.ac.jp/activity/support/placement/index.html> 当センターHP/研究支援員配置▶

奈良医大では女性研究者・医師支援センター「まほろば」が、妊娠・出産、育児、不妊治療、介護等のライフイベントにより、研究時間を十分に確保できない女性研究者・医師に対して、研究支援員を配置してくれます。医大生に占める女性の割合も年々上昇する中、非常に重要な支援制度と考えます。

当科・森本千裕医師はこの制度を活用して、臨床データ収集、英文論文執筆投稿受理掲載、助教昇進、科研費獲得という理想的な成果を挙げることができました。研究支援員の亀喜様、ありがとうございました。



2024年12月28日



一昨日、納会をおこないました。

奈良県でも年末になり、インフルエンザが猛烈な勢いで増えております。医局員も常日頃から、感染対策・健康管理をおこないながら業務を行ってきました。納会では一年の反省と来年の目標などを医局員で共有いたしました。

今年一年ありがとうございました。

令和7年1月5日までは当直体制、1月6日から通常診療の予定です。来年もよろしくお願いいたします。